

Tsukuba

COMMUNICATIONS *Autumn*

対×談

大学における教育・研究の 国際化について

国際日本文化研究センター所長 猪木 武徳 氏 × 筑波大学 副学長 辻中 豊



- ⑧ 特集 東京キャンパス文京校舎
- ⑩ 聴 鍋倉 賢治 准教授
- ⑫ 学内組織紹介 学術情報メディアセンター
- ⑭ 名物先生登場 蒔田 守 主幹教諭(附属中学校)
- ⑯ Sports Club ラグビー部
- ⑰ Art & Culture なっしー・自然教育研究会
- ⑲ TOPICS イベント/地域貢献/受賞
- ⑳ OB&OG 森川 幸人さん
- ㉑ リレーエッセイ
- ㉓ つくばNOW
- ㉔ つくばSupporters
- ㉕ 新聞掲載・テレビ放送一覧
- ㉖ イベントカレンダー



大学における 教育・研究の 国際化について

国際日本文化研究センター所長

筑波大学 副学長

猪木 武徳 氏 × 辻中 豊

筑波大学



辻中:猪木先生は、大阪大学に長くおられて、その後、京都にある「国際日本文化研究センター」の所長に就任されて今年で4年目ということですが、本学でも「国際比較日本研究センター」を2008年4月から設置(人文社会科学研究科内)しています。また、私は4月から国際担当の副学長でもありますので、今日は、大学の国際化や日本研究のこれからについてお話をうかがっていききたいと思います。

猪木:ときどき「国際」と「研究」を抜いて、日本文化センターと呼ぶ人がいるのですが、すると某テレビ通販の会社と同じ名前になってしまうので、「国際」と「研究」をお忘れなくと、いつも言っているんです(笑)。

辻中:猪木先生は、歴史から労働関係の経済問題など、多岐にわたる研究活動をなさっておられますが、日文研の所長に就任されたのはちょっと意外な気もしました。

猪木:私も意外でした。私は最初に奉職したのも大阪大学の経済学部でしたから、

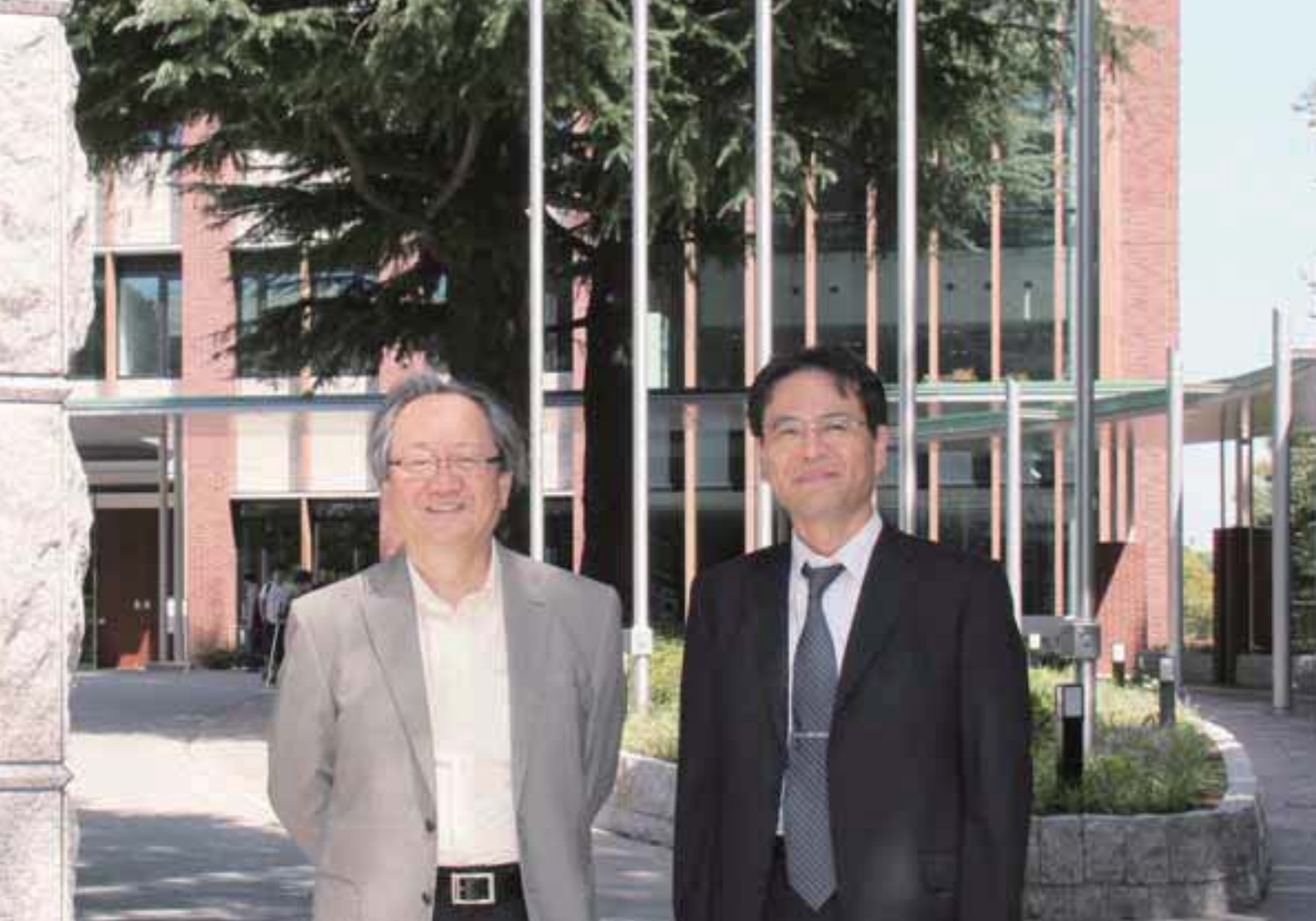
1974年から28年近くおりました。

辻中:私は81年まで隣の法学部の院生でした。72年から76年は学部学生でしたので、同じ建物にいたことになりませぬ。

猪木:私自身は学生の頃から含めると30年以上経済学を中心に社会科学を研究してきましたが、もう少し思考のフレームワークを広げたいということや、一種自分の限界を知るといふか、そういうことを考えていた時期に声をかけていただいたので、心機一転ということでお引き受けしたのです。

ただ、日文研というのは、基本的にヒューマニティーズの研究所で、歴史や思想、宗教、文学など、主に人文科学中心で、私は経済学ですから社会科学の研究者です。私が行った時には経済学、経済史の方は日文研のなかにはどなたもおられなかった。常勤30から35人、1年交代で代わっていく外国人研究者が15人です。当初私は、この約50人という人数からみても、社会科

01



学まで広げる必要はないのではないかと
言っていたんです。しかし所長になって気
が付いたのは、やはりヒューマニティーを
学ぶにしても、社会や経済、政治は必要だ
と、今は豹変しております(笑)。

辻中: そうですね、日本研究には経済や
政治も必要だと思います。

“日本固有の”文化という 捉え方はもう時代遅れ

猪木: 日本研究ということであると、たとえ
ば“日本固有の”文化という発想は、ちょっ
と時代遅れだという気がします。日本を
テーマにしなが、同じテーマの研究者に
よる外国との比較が大事で、メソッドとして
は“比較”しかないと思います。

外国を知らずして、“日本固有の”なんて
いう議論がまかり通った時代もありますが、
そのほとんどは実証性に欠けていたり、論
理性が無かったり、単なる思い付き的なも
のだということが徐々に分かりだして。この

研究センターを創設されたのは、ご存じの
ように梅原猛さんですが、あの方のように
特異な才能をもって何か新しいものを生
み出される、それは従来の学問の系譜が
ない領域ですね。梅棹忠夫さんもそうだ
と思います。ああいう特別なタレントでおし
ろいものを開発していくということは誰
でも真似ができない。ところが、学問とい
うのは積み重ねですから、やはりそのフレ
ームワークを知っていないと、それを壊すこ
とできない。来年、私たちの研究センターも
25周年を迎えますが、私が着任して10年、
だいぶ変わってきたと思います。それぞ
れの分野できちんとした仕事をしている人
で、かつ柔軟な人というのを意識して来て
いただくというふうにしてきましたから。

辻中: 比較研究の契機になるという点で
は、15人の外国の方が入れ替わり立ち代り
おられるということもポイントでしょうか？

猪木: 研究に対する姿勢などで反省させ
られることがありますけども、やはり日本人

だから日本のことはよく分かっているとい
うのは思い過ぎだということにも気が付
かされます。客観的に外国の方が日本の
社会なり、組織なり、文学でも、それらを
批判的に分析することによって、私たち日
本人が気が付かない、意外なことが分か
ることがありますね。

この15人の外国人のポストは、ここ数年
でだいぶその出身国が変化してきていま
す。過去25年間のなかで、日本研究が非
常に成熟したアメリカや西ヨーロッパ諸国
が中心だった時代から、最近ではベトナム
とかインド、中東も増えています。なかでも
圧倒的に多くなったのは韓国、中国です。
担当する所員も1人で2人以上引き受けな
い、そうしないと十分なお世話もできないし、
いい加減な対応でかえって気分を害して
帰国されてもいけないので。

辻中: 外国の方の場合いろいろケアが
必要ですね。

外国に正確で正しい日本の理解者をつくること

猪木:外国からお招きして日本で本格的な研究をしていただくということが第一目的ですが、実際には私どもの研究センターに来てもらういちばん大きな理由というのは、簡単に言えば外国に日本の正確で正しい理解者、応援団をつくるということです。私は学術外交と呼んでいます。一時リビジョニスト(日本市場の閉鎖性を批判してアメリカの対日政策見直しを主張した修正主義の人々)みたいな中途半端な日本理解で、ポッと日本に来て印象だけで帰国して、ちょっと歪んだ日本像を喧伝するような人が目立ちました。そうならないようにしなければいけませんから。

辻中:あれは1990年前後で、アメリカと日本が経済で競り合っていた頃ですからね。

猪木:ああいうことが、できるだけ起こらないように、あるいはE・ライシャワーさん(元駐日アメリカ大使・ハーバード大学日本研究所所長)とか、M・ジャンセンさん(日本研究者・プリンストン大学名誉教授)らの世代のオールラウンドな方たちが、世代的にも非常に少なくなってきた。いま日本研究というと、外国の大学ではジョブ(仕事)も少ないですから。

辻中:どんどん再編されて、東アジア研究とか別の名前になっていますね。

猪木:あと中国と中東ですね。私が前にいたドイツのマールブルク大学の日本研究所も、来年か再来年に中東研究所に衣替えることになっています。そういう点で私たち日本人はちょっと変化に対して鈍いというか。

海外における日本研究の位置が低下している

辻中:ここ10年、20年で、外国における日本研究の位置というのは残念ながら急速に低下して、中国研究にとってかわられたり、ずいぶん雰囲気が変わってきていますね。

猪木:中国政府は、そのやり方は問題なしとはしませんが、努力はしていますね。大学院生5000人派遣とか、「孔子学院」とか。

辻中:あれは必ず現地の大学とかとタイアップしてやるということで、独自の施設はつくらないで、ある意味では巧みなやり方ですね。

猪木:中国は、あつかましいぐらい大変な努力をしています。日本人はやっぱり陰徳の美学があるのか、そこまで必死にはやっていない。

辻中:中国があつた「孔子学院」という政策を始めたのはここ10年(2004年から設置)で、意外と最近です。それなのにすでに全世界に300以上「孔子学院」がある。国内でも10校以上。「孔子学院」は中国政府がお金を出して、中国語と中国の文化を普及させる目的で、外国の大学や教育機関と提携して世界中に創設するという政策ですが、ドイツのゲーテ・インスティテュートやフランスのアテネ・フランセーズと似ているという見方もありますが、もっと国がバックアップしているという印象ですね。

猪木:一応ランゲージスクールということですが、アテネ・フランセとかは大学の中には入っていませんが、「孔子学院」は中に入っている。語学学校といいつつながら思想教育をやっているというので、アメリカの一部のメディアが反発しているようです。京都では立命館孔子学院が有名ですね。早稲田にも一部できた。

辻中:そんな中、本学も2008年に人文社会科学研究科に「国際日本研究専攻」をつくりました。猪木先生のところと同じで、定員の半分近くまで外国出身の先生に入ってもらっています。こちらは1年交代ではなくパーマネントの教員です。ただ、人文学・社会科学の協働の難しさと学際的な学問の難しさというのはありますね。それぞれ皆さん一流の方々ですが、それを一つにまとめ本当の意味で教育・研究を進めていくためには、相対的に強いリーダーシップを持った人が必要になります。

大学における教育・研究の国際化の課題

猪木:いま企業もこれだけ国際化した世の中になって、遅れているのは、労働組合とかメディア、そして大学です。

辻中:大学の国際化という問題について話題を展開したいと思いますが、私がかつて学長特別補佐をしていたときに、国際化に向けてしっかりした大学のポリシーがいるだろうということで、「世界的『知』のネットワークの開拓と、『地球文明発祥地帯』への貢献」ということを掲げました。たまたま本学で

北アフリカ研究センターというものを持っていて、今もチュニジアのチュニスに、「グローバル30」(国際化拠点整備事業)の全日本の拠点として、オフィスを置いています。カルタゴ11月7日大学というところと提携して。

猪木:ほう、それはスケールの大きい話ですね。

辻中:ここがまず第1号の拠点(海外事務所)で、ここに置いた理由は一言では言えないのですが、文部科学省的に言えば、アフリカと日本との関係を築いていく上での橋



頭堡というか、日本が国連で常任理事国になろうとするときにアフリカ諸国からの支持があまり得られなかった。そういうような意味もあって拠点をアフリカに置いたわけです。

猪木:経済的な意味でもアフリカは重要です。日本はいちばん出遅れていますからね、資源貿易においてもね。

辻中:アフリカの次には中央アジアにつくりました。ウズベキスタンのタシケントです。アフリカや中央アジアなどいわゆるシルクロードにそった国々と関係をつくっていくときに、日本の果たすべき世界的な役割ということとも関係しますが、そこで『地球文明発祥地帯』への貢献』ということを言ったわけです。

猪木:チュニジアとか、日本でアフリカ研究をなさっている方というのは、どのくらいいらっしゃるのでしょうか?

辻中:自然科学分野を除けば、全国的にもまだ少ないですね。本学でも少ないですがゼロではありません。私の前に副学長をな

さっていた塩尻和子先生は、元リビア大使の奥様でもあって、東大で宗教学・アラビア研究をされ、その後、筑波に来られて50代にして教員になり副学長まで勤められたという方もいらっしゃいますから。

猪木:塩尻先生のような立派な方がいらしても、やはり層をなしていない。こういうことが問題ですよ。他の分野では、メインストリームのなかで、重箱の隅をつつくような研究をしている人が層をなしているのに(笑)。

ところもあります。

猪木:国際化といった場合、イギリスやアメリカ、オーストラリアなどの英語がネイティブ言語の国の国際化と比べると、我々は大きなハンディを負っています。韓国の高麗大学校は3分の2の授業を英語にするというプログラム(実際は40%)をつくったそうですが……。

辻中:あれを実践したのは、ヨム・ジェホという私の友人です。サムスンなどから資金を

とくがあり、ものすごいハンディがある。つまり英語ですよ。

では中長期的な問題としてどうすればいいのか。たとえば中国人のなかでトップレベルの人はアメリカに行くと言われていました。その次がイギリス、オーストラリアで、将来的に日本とのビジネスを考えている人が日本に来るといふことが多い。だから中国のトップレベルの人材を引き抜いてくることはなかなか難しい。しかしこれは日本の企業に理解



中国やアジアの留学生が多い時代に 英語で授業する矛盾

辻中:大学の国際化、これにはけっこう様々な矛盾もあります。本学も英語でのプログラムを23、用意しています。各コースとも数名から20人ぐらい外国からの学生を入れて英語で授業していますが、我々がへたな英語で授業をやることに抵抗もありながら、トレンドとしては国際的に通用性のない学問ではいけないという流れですよ。本学の場合だと、正規で1,500人弱、短期留学や研究生等を含めると2300人から2400人ぐらいの留学生数を受け入れています。全学生1万7000人(学部・大学院)の総数からすれば国立大学としては高いパーセンテージだと思います。ただ中国からの留学生が5割。全国的には6割、7割ですけど。そこで英語で授業をすることの矛盾も感じている

提供してもらって、カナダのブリティッシュコロンビア州とか世界各国に拠点の校舎を建て、そこに留学生を送り込んでいます。

猪木:それは外国に送り込むほうですね。私は2009年に韓国に行ったとき、高麗大学校で朝鮮史を英語で教えるためにアメリカから招聘されてきた韓国系アメリカ人の学者が言っていたことが印象に残っています。彼は「朝鮮史を英語で教えることはできない」と。非常に簡単な小中学生向けのイントロダクション的な話ではできるけれども、その歴史上の概念が英語にはないというケースが多いため、英語で正確に教えるのは無理だと。英語の流通性の高いアカデミアのなかで、物理学とか建築学のような場合と違って、ソーシャルサイエンス、ヒューマニティー、つまり人間が関わる分野になると、大学の評価のシステムと同じで、理系の評価システムを人文系に持ってきても無理がある。それと大学の国際化もちょっと似た

を得ることである程度クリアできると思います。たとえばイギリス人留学生が日本で政治学を勉強し日本語も堪能になったとしても、現状の日本企業では、契約書の翻訳をチェックするとか専門スタッフ的な仕事しか与えられないという現実。実際のラインのなかで昇進していくということが余りに少ない。日本で採用した留学生が、その企業がやがて母国に進出したときにトップになれるようなキャリアを積み上げられるシステムに変わっていかないとダメです。留学生が正当な仕事や評価を得られるようにしていかないと、企業も今後、生き残っていけないと思いますね。

02



最近の学生や若年層の 内向き志向をどう克服するか

辻中:日本の若い人が内向きであると言われています。猪木先生の時代も私の時代にも、学者になろうという人は、必ずどこか海外に出て行きたいという希望があったわけですが、今40代以下の人の場合はそれが希薄だと感じますね。

猪木:外国に行っている間に日本との縁を切ってしまうと、日本に帰ってきてからのジョブが心配だという面と、今はインターネットのおかげでどこにいても海外の文献もジャーナルも読めるからわざわざ外国に行く必要が無いという感覚。しかし社会科学というのは、論文を読むこと以外に実際に社会生活を海外で送り、社会観察をするということも大事だろうと思います。

辻中:中国や発展途上国の学者に会って話をしていると、最後には、やはり国を良くするため発展させるためにこの研究をやっているんだと演説を始めますよね。日本の

研究者にはない必死さや国を背負っているという気概のようなものを根底に感じますね。それと実際に人と人が触れ合う、フェイス・ツー・フェイスが若い人ほど弱くなっているなあと感じます。

震災・津波・原発・原爆の 経験をきちんと記録し、 忘れないこと

猪木:私も辻中先生も、フルブライト基金はじめ、いろいろなスカラシップを得て海外に留学しましたが、アメリカはまず相手に利益を与えておいて最終的には自分たちの利益とするというやり方で、賢いというか、啓発された自己利益の獲得が巧い。日本をGATT(関税および貿易に関する一般協定)に参加させるときにも、オーストラリアやニュージーランドは反対したけれど、アメリカは入れると言って、入れてそれで自分の重要な貿易のパートナーを得た。アメリカという国はそういうところ、じつに柔軟で賢いですね。

辻中:だからこそ、これだけ長いこと覇権が続いているわけですが、かつて1990年前後には、日本がアメリカを抜くかという勢いの時代でしたが、この20年は相当苦しい。この日本の社会がこのままでいいのかわからない、いまは原発の問題もあり、大震災が起こった後の2、3ヶ月の時には、今後国民や政治家の考え方も変わるのではないかと感じていたのですが、半年経ってみると何も変わっていない。かつての1923年の関東大震災のときには、変わったということがあったと思うのですが、どうでしょう。

猪木:作家の吉村昭の『関東大震災』という本がありますが、鈴木淳さんという東大の技術史が専門の国史の先生が関東大震災の信頼できる記録を調べようとしたら、関東大震災から50年後に書かれた吉村昭の本以外に「正史」がないと気付かれた。もちろんいろいろあるのですが、信頼できるものがほとんどないと。その彼が中心となられて、日本防災会議でしたので、関東大震災のすべてにわたっての記録をつくったのですが、それが印刷されたのが20部で、ほとんど読まれていない。今度やっと、ネットでダウンロードできるようになったということですが、これをとっても分かるように、私たち日本人には記録する精神がないから、そこから学ぶことがない、それにすぐに忘れてしまう。いろいろ大変だけどもあまに流してがんばろうという精神です。がんばるのは大事ですが、何で起こったのか、どう対応したのかということについて、信頼し得る記録を持たないというのは、国民、民族として弱いと思う。

辻中:ヒロシマ・ナガサキの原爆の記録でさえも意外とないんです。いろいろ小説や詩などの記録はたくさん残っていますが、どれぐらいの規模で、どうなったという詳細な記録がない。社会科学的なきっちりした原爆の記録が少ない。戦争中の特攻隊についてもきちんとしたものは意外と少ないわけです。メンタルなものはたくさんありますけど。

猪木:9・11についてもアメリカでは、物理学から工学博士から社会学者まで、いろんなジャンルからの詳細な記録が出ています。「ジャーナル・オブ・9・11スタディーズ」、

これは2006年から出ています。

辻中: 今回の東日本大震災にしても、アメリカのハーバードの研究者やジャパノロジストが、「東日本大震災記録アーカイブ」を4月の始めに作っています。私のところにも関係あるものを寄せてくれと連絡がありましたが、日本人がまだ何もしていないときに、アメリカからやって来て資料を集めている。そういう発想が、我々日本の社会学者に抜けているかも知れません。

猪木: だからボランティアの精神も、がんばろうの精神も大事だけれど、それだけじゃ足りないわけですよ。それにはきちんと財源も手当てし、そして記録して忘れないようにしないと、今度また災害が起きたときに、「また起こったなあ、がんばろう」ということだけでは、後世の人に対しても責任感があるとは言えない。

日本が元気になるために 何が必要か

辻中: では最後に、どうやったら日本の経済が元気になり、大学は何をすればいいのかということをお聞きしたいと思います。

猪木: 難しい質問ですね。消費税増税についても、政治家はなぜあれほど逃げまくっているのか。消費税を上げたときに個人消費は一時的に落ち込みますが、問題は有効需要ですから、復興のための投資や民間投資も行われる。投資と個人消費を合わせたものが有効需要ですから、いまそんなことを言っている局面じゃないと思うのです。元気になるというのも、外から与えられるようなものではなくて、我々自身がメンタリティーをぐっと変えていかないと、これにはもう万能薬はない。経済政策というのは対症療法の薬みたいなもので、ある痛みに対しては効く場合があるけれども、不幸にして重篤な病には効かない。そして我々のメンタリティーということが、経済的に大きな影響を及ぼすので、政治が連帯感を醸成するのにも、その財源の問題を逃げたりすることがいちばんのネックじゃないでしょうか。それとアメリカの経済が世界中の経済をかく乱して仕方がないけれども、アメリカというのはそういう社会で、9・11のようなことが起こるとしばらくは

おとなしくしていて、また再び野生化するとか。それがまたアメリカの力なのです。ちょっと迷惑な巨人ですが、その恩恵を日本は被っていることも事実です。

辻中: ともかく日本の政治は、いろんなことを決めてこなかった。いずれにせよ、プランは大きな立派なプランを出せばいい、そして財源も必要だということで、その選択と決断をするということでしょうね。

猪木: 決断を回避したり、そういう政権を許している私たち有権者のほうにも責任がありますよね。

辻中: 特にマスメディアもかつてと同じ価値観で、旧来のスタイルから脱していない。その背後には、我々社会学者、政治学者の責任も大いにあると思いますね。本日は、いろいろなお話がうかがえました。ありがとうございました。

03

Profile



Takenori
Inoki

いの き たけ のり 猪木 武徳 氏

国際日本文化研究センター所長

1945年 滋賀県生まれ
1968年 京都大学経済学部卒業
1974年 マサチューセッツ工科大学大学院博士課程修了
1987年 大阪大学経済学部教授
1995年 〃 学部長
2002年 国際日本文化研究センター教授
2008年 〃 所長



Yutaka
Tsujinaka

つじ なか ゆたか 辻中 豊

筑波大学副学長

1954年 大阪府生まれ
1981年 大阪大学大学院法学研究科
博士後期課程単位取得退学
1981年 北九州大学法学部(政治学科)専任講師
1986年 筑波大学社会科学系政治学専攻助教授
1998年 〃 社会科学系(政治学専攻)教授
2004年 〃 大学院人文社会科学研究科教授、
同学長補佐、国際連携室長(-2007年)
2011年 〃 副学長



東京キャンパス文京校舎が完成

東京キャンパスの新校舎が完成し、9月30日に開所式が行われました。

旧建物(東京キャンパス大塚地区E館・G館)は、東京教育大学時代の昭和26年～39年に建設され、築後、半世紀程経過しており、雨漏りや外壁の劣化など老朽化が著しいものでした。

このため、平成21年度補正予算を要求して、認められ、放送大学学園の東京文京学習センターとの合築として建てられました。

本建物は、最先端の技術を取り入れ、省エネやバリアフリーに取り組んだ、利用する人びとや地球にやさしいものです。

今回は、本校舎についてご紹介します。



【概要】

所在地 東京都文京区大塚3-29-1
敷地面積 12,997.7㎡
建築面積 3,875.18㎡
延べ床面積 21,990.61㎡
(筑波大学) 16,011㎡
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
階数 地上6階、地下1階
工期 平成22年3月～平成23年8月

設計コンセプト

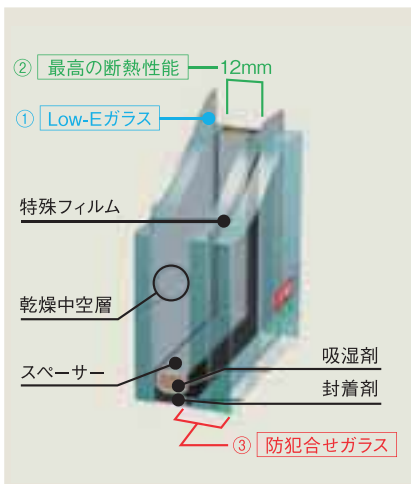
- 地域や、豊かな木立と融和した歴史・風格のある学び舎としました。建物の高さは、木々に合わせて極力抑え、木立になじむルーバーや質感のある材料による外観にしています。
- 社会人の学びの場＝生涯学習の拠点として、開かれた大学にふさわしい設計にしました。
- 省エネに配慮し、高い環境性能をもった施設設計を施しました。

屋上階				
6階	屋上緑化	教員研究室	教員研究室 ラウンジ	ホール
5階		教員研究室	弁護士事務所 ラウンジ	ホール
4階		教員研究室	教員研究室 ラウンジ	ホール
3階	放送大学	教員研究室	事務室 ラウンジ	ホール
2階		放送大学	中庭	放送大学 ラウンジ
1階		理療科	大講義室	ホール ラウンジ
地下1階		図書館	エント	大講義室 ホール

省エネ対策

【①建築】

- 全ての外部建具に、高断熱性能ガラスを使用しました。
- 外部からの熱の侵入防止対策として、外壁・屋根の断熱材を強化し、遮熱塗料を使用しました。また、屋上を緑化したり、木製ルーバーによる日射対策も施しています。
- 透水性アスファルトを使用し、ヒートアイランド現象の緩和をめざしました。



【②電気設備】

- LED照明および高効率照明を採用し、電気使用量を、従来比で約40%削減しました。
- 利用形態に合わせた照明点灯区分にし

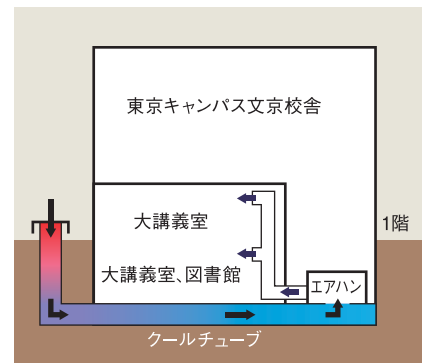
ました。スイッチ回線を細分化して必要なエリアのみ点灯できるようにしたり、中央(警備員室)において集中管理できるシステムとなっています。

- デマンド監視設備で電力を監視したり、集中検針設備による「電力見える化」で、電力の使用量が把握できるようになっています。
- その他、効率機器・エコ材料等を採用しています。



【③機械設備】

- クール・ヒートチューブを採用。地下5mにチューブを通し、取り入れた外気を年間一定の約17℃とし、空調負荷効率を向上させました。
- 使用電力管理システムの導入～デマンドコントロールにより、空調設備を制御しています。
- 高効率型空調機を採用。屋上室外機周りに霧状の水を散布し、その打ち水効果によって、冷却効率を向上させ、負荷を10%低減しました(試験値)。
- 夜間電力を利用した氷蓄熱型空調機を採用しました。
- 超節水型衛生器具、無水小便器(洗浄水レス)を導入し、従来の13ℓに対して、6ℓで洗浄できるようにした他、屋上等緑化散水用に、雨水再利用設備を導入しました。



バリアフリー対策その他取り組み

- 正門からエントランスホールまで段差をなくし、光る点字ブロックおよび音声案内装置によって誘導しています。また、館内は、弱視者の負担にならない低輝度光源照明を選定しました。
- 各フロアに多目的トイレを設置し、1階はオストメイト対応となっています。
- 大型エレベーター、災害時防災トイレ

対応のマンホールを設置しました。

- 個別空調室内機は、自動フィルター清掃機能付です。
- 豪雨対策や災害時2次利用のため、地下に、雨水貯留槽を設置しました。建物地下に550t、敷地北側地下に250t分貯留できます。
- ICカードキーによる全館入退室管理



システムを導入したり、屋外、図書館、エントランスホール等に防犯カメラ設置するなど、最新の防犯対策を施しています。



起伏のあるトレーニングコースを探しましょう。登り坂を登るだけで、心肺機能に負荷がかかり、スピード練習の代わりになります。

山道を走るトレイルランニングは、起伏に加え、でこぼこした不整地を走ることによって、平地を走るより、色々な筋肉や体幹を鍛えることができます。

また、自転車トレーニングもお勧めです。自転車を使えば、全力トレーニングをして心肺機能を鍛えても、膝など身体にはあまり負担がかかりません。

レース3週間前からペースダウン

つくばマラソンは、フラットで、記録の出やすいコースなので、記録を狙って出場する人が多いようです。

出場する人たちは、大会に向けて、トレーニングの量も質も上げてきているのですが、遅くても、レースまで3週間となったら、徐々にトレーニングの量を減らし、レース当日に、体調が最高の状態になるように調整します。トレーニングの頻度やスピードは変えず、走る距離を短くしていき、直前1週間、60%程度の強度にします。今まで直前までがんばっていた人は、こうすることで、タイムをぐっと縮められるはずです。

1、2週間前にシミュレーションを

レースの1、2週間前に、レースの時間に合わせた行動をシミュレーションしておきます。レースと同じ時間に朝食を摂り、同じ時間に練習をスタートして走りましょう。

3日前から高炭水化物食

マラソン3日前からは、高炭水化物食を摂取します。

当日は、スタート時間の2〜3時間前に、加熱した消化のよい食事を摂ります。腸内にガスが溜まりやすい豆、芋類などは避けます。やや脂肪を含んだ食事の方がよいといわれているので、私は、朝食後に好物のケーキを追加しています。直前の補食には、ゼリー飲料などがお勧めです。

レースのシューズは新品で

ランニングシューズのクッション性能は、走行距離に応じて劣化してしまいうので、レースには、練習に1、2回使っただけのシューズを使います。日頃トレーニングをしているシューズと同じ型の新品を使うのが理想です。5本指ソックスを履くと、マメができてにくいようです。

レース中に考えるべきこと

レース直前は、気合を入れるより、ゆつたりと自然体で過ごしましょう。ウォーミングアップは、軽いウォークとストレッチだけで十分です。

レース中は、1キロごとのラップとその変化、主観的な感覚や心拍数とそれらの変化、そして、気温、風、周りの選手といった環境など、思考のほとんど全てを、レース展開に関わる身体状況の把握と予測に費やし、その日の適切なペースを判断しながら走ることが重要です。

ランニングを楽しむ

レース中は、身体と真剣に対話しながら走りますが、日頃のランニングは、楽しみましょう。無心に走ると、心身が解放され、ストレスが解消されますし、逆に、仕事のことを考えながら走ると、頭の中が整理されて、良い考えがひらめくこともあります。知らない街に行ったりするときなどは、風景を眺めながら、観光ランニングをするのも楽しいものです。

ランニングについて、より詳しく知りたい方は、初心者からアスリートランナーまでを対象にアドバイザーをまとめたHP(プロフィール参照)を参考にしてください。

自転車やトレイルランニングがおすすすめです。

エコシティー第31回つくばマラソン

開催日時:11月27日(日)
マラソン(42.195km):9時30分スタート 10km:10時10分スタート
本学周回道路(スタート)~本学陸上競技場(フィニッシュ)
日本陸連AIMS 公認コース
レイトエントリー:10月下旬受付予定。詳細はHPにて
<http://www.tsukuba-marathon.com>

聴

タイムを伸ばす効果的なトレイニングは？

世の中の関心が高まっている事からについて、 本学の専門家の方々にお話を伺う、「聴」がスタートしました。

本学が共催し、31回目の開催となるつくばマラソンがきたる11月27日に開催されます。

フラットで走りやすいコースであり、初心者から記録を狙うアスリートランナーまで、

全国から1万3000人の参加者が集まる大変人気の高いレースです。

空前のマラソンブームといわれ、ランニングを楽しむ人々が急増している今、本学関係者も数多く参加することでしょう。

そこで、「聴」第1回は、20年以上にわたり、本学で自由科目「つくばマラソン」を開講している鍋倉賢治准教授に、

市民ランナーが自己目標を達成するためのアドバイスをしていただきました。

空前のマラソンブーム

つくばマラソンの一般エントリーは、開始わずか5時間で締め切られました。今、日本では、市民ランナーが急増して、走りたい人が走れないというところが問題になっているほどです。今年で20年めとなる、本学の講義「つくばマラソン」の受講生数も、ここ数年、学群生・院生合わせて2000名を越えています。リピーターが多く、7年連続で受講しているという院生もいます。

大会エントリーは 年に2回が理想

数多くの大会に出れば、どこかで自己目標が達成できるのではないかと考える方がいますが、フルマラソンの大会出場は年に2回程度に絞り、それぞれの大会に対して計画的に準備をした方が、記録を出すことができます。

計画的な準備は、まず、走った距離、時間、平均速度、心拍数、体重や体調など、何でも気がついたことをトレイニング日誌に記録することから始めます。

心拍数を計測するために、心拍計を用意しましょう。心拍の反応は、相対的な運動強度の目安になるので、続けて記録し、快適に走れる時の心拍数や、距離に応じた適正心拍数など、自分の心

拍数を把握してください。

大会までの ステップアップ計画

大会3カ月前には出場準備を開始します。1カ月単位の目標を設定し、それらを達成できるように、1週間単位でトレイニング計画を立てましょう。

例えば、フルマラソンを3時間半で走るには、1^{キロ}5分程度のペースで楽に走ることができればなりません。「3か月後に3時間半で走る」という目標を立て、少しずつ、1^{キロ}5分で楽に走れる距離を伸ばし、「大会1カ月前には、1^{キロ}5分で20^{キロ}以上走れるようにする」というような目標を立てます。その目標の時期に、ハーフマラソンに出場するのもいい励みになるでしょう。

トレイニングは、質と量

初心者の方には、週3回、30分程度走ることから始め、徐々に走る量を増やしていくようにと指導

しています。しかし、1日

10^{キロ}、1カ月300^{キロ}

以上走ることは、ケガのリスクが高まるため、お勧めできません。量的な負荷ではなく、

質的な負荷をかけることで、トレイニングの効果を高めていくことが必要になってきます。

トレイニングに変化をつける

強度を高めるトレイニングに、スピード練習があります。前述した1^{キロ}5分が基準のペースでは、1^{キロ}4分半くらいで走るようになります。1^{キロ}早く走って1^{キロ}ゆつくり走ることを繰り返すインターバルトレイニングも効果があります。毎日同じように走るのではなく、長くゆつくり走る日と、早く短く走る日、インターバルトレイニングをする日と、メリハリをつけて練習すると良いでしょう。

中高齢者には 自転車トレイニング

中高齢者など、ケガをしやすい人には、スピード練習は向きません。



鍋倉賢治 准教授(人間総合科学研究科体育学専攻)
ランニング学会 常務理事

1963年生まれ
1991年筑波大学院博士課程体育科学研究科修了・教育学博士
1992年自由科目・体育「つくばマラソン」開講
2005年市民へのマラソン講座開講(マラソン学会主催)

<http://www.jognote.com/column>

13 学内組織紹介

学術情報 メディアセンター

つくばキャンパスは、東西約1km、南北約4kmの自然に恵まれた広大なキャンパスで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な教育・研究組織がありますが、全てを知ることはなかなかできません。その組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。

2004年に改組された学術情報メディアセンターは、本学全体の情報環境や情報サービスの研究開発と、情報基盤の整備や運用を担っています。

例えば、学生や教職員が利用している学内・学生宿舎などのインターネット環境、全員に割り当てられているIDやe-mailアドレス、LANなどのネットワークシステム……、こうした情報に関するネットワークシステムも、同センターが整備しています。



Introduce

独自のネットワークシステム

現在センターでは、約2万5000ものIDに対して色々なシステムを同じパスワードで使えるようにする統一認証システムや全学計算機システム、大規模なネットワークを管理しています。和田耕一センター長は、まるでインターネットサービスの企業のような苦労を語ってくれました。「日々の管理は、とても大変です。システムや機械の管理もそうですけれども、ユーザーサポートですね。教職員や学生からの問い合わせに対して、何か調べることがあれば調べて伝える、というような作業がかなり大変です。センターに問い合わせがくる典型的なものについては、センターのサイトにQ&Aのページを作っていますが、それでも同じような質問がよくあります。『パス

ワードを忘れた』という問い合わせは毎日のように来ますね。そうした対応もセンターの仕事です」

同センターは、「いつでも、どこからでも、簡単に、誰もが使用できる」ネットワーク指向のシステム構築を開始するため、大学創立の直後の1974年に設立された計算センターが前身です。その後、スーパーコンピュータの運用(その後計算科学研究センターに移設)などを経て、現在の組織として整備されました。こうした大規模で複雑な業務を専門に扱うセンターが設置されている理由の一つに、セキュリティの問題があります。「外から受けるサイバーテロなどの問題もあるのですが、最近、特に問題になるのはP2P(ファイル共有ソフト)によるデータ共有

です。学内のシステムを利用して著作権侵害してしまう利用者がいて、これが後を絶ちません。センターから外部業者に委託して、映画や音楽などのコンテンツをP2Pを利用して共有し合うことを監視するシステムを導入しています」

暗闇の中で 明かりのともっていたセンター

本年3月11日に起こった東日本大震災では、大規模な停電となり、学内のネットワークシステムも一時ダウンしました。

地震による直接の影響だけでなく、情報が遮断されることで混乱に拍車がかかってしまいます。また、翌3月12日に後期日程の入学試験を控えているなど、外部に対しての情報発信も急務でした。すぐに非常用電源に切り替え、サーバの無事を

4つの研究開発部門

1. ネットワーク研究開発部門

学内ネットワークの基幹部分の運用管理や、ファイアウォールなどによるネットワークセキュリティを強化するためのシステムの運用管理、利用者が所有しているパソコンなどを接続するアクセスポイントの運用管理、学外研究ネットワークの運用支援、また最新のネットワーク技術に対するセキュリティに関する研究開発も行っています。

2. 分散情報システム研究開発部門

多様なコンピュータシステムによるサービスを学内の利用者に提供するとともに、コンピューティング環境の利便性・安全性を高める技術の提供と研究開発を行なっています。教育用である「全学計算機システム」の運用・管理、学内組織が必要となる情報発信のためのレンタルサーバの業務を担っています。

3. メディア研究開発部門

マルチメディア・コンテンツの多様化に対応するため、様々な媒体に種々のフォーマットで記録された学術情報に関する編集・変換・提示・配信に関する支援など、メディア情報に関する研究・開発・運用などが主な業務。大判ポスター・看板の印刷や、ビデオの制作・編集サービス、映像や写真のデジタルアーカイブ・サービスなどを行っています。

4. 統一認証システム研究開発部門

学内の様々なシステムにおいて、パスワードを共通化し、統一認証システムの導入・管理・運用を行っています。



学術情報メディアセンターの主な業務

1. 情報基盤の整備計画の立案
2. 基幹情報ネットワークの整備・運用ならびにサービスの提供
3. 全学計算機環境の整備・運用ならびにサービスの提供
4. 情報基盤に基づいた多様なサービスの提供
5. e-Learningなど教育の高度化
6. 情報セキュリティの確保



確認してホームページを立ち上げ、3時間後には入試の延期などの情報について発信しました。文部科学省からも、被災した東日本の他大学に比べて筑波大学の復旧が早かったと評価されました。緊急時の電源のため容量に限りがあるので、必要なサーバやコンピュータなどだけに電源を供給し、「全学計算機システム」などに異常がないか、夜遅くまでセンターで作業しました。「あの晩、校内で電気がついてたのはここだけですから、学生さんが避難しに来ました。また、翌日の受験のための下見に来ていた高校生も何人かいて、地理も分からないし、寒いし、真っ暗だしということで、光に吸い寄せられるようにここに来たそうです」

最新技術の導入とeラーニングの推進

情報技術の革新は、まさに日進月歩で進んでいます。その技術革新にあわせて、学内のあらゆる情報システムを研究・開発することも重要な役割です。「例えば、iPadやスマートフォンなどが普及してきています。するとスマートフォンに対応したサービスを開発していかなければなりません。次に新しいシステムを導入すれば、数年後を見越して先端のものをいれたい。ところが先端のものを入れて、ネットワーク全体に新しい技術を盛り込んで、本当に動くのかどうなのかということは相当時間をかけないと分からないんです。安定的に動かすために様々なテストを繰り返すわけです」

4つの研究開発部門のほかに、同センターで力を入れているのが「eラーニング」の推進です。学習管理システム「Moodle」を本学仕様に合わせ設置し、教育・研究の高度化に向けて、学内で普及するよう働きかけています。「資料配布、レポート管理、出席管理、あるいは学生と先生のコミュニケーションなどに活用しています。現在、全学で登録されているのは726授業で、全授業の十数パーセント。教育の質を高めるためにも、これから普及するように啓発活動をしていきたいです」この他、写真や動画の制作・配信のサービスも行っています。幅広く複雑なセンターの業務ですが、情報化社会の現在、大学全体の情報管理にとって必要不可欠な役割を担っています。

附属学校の 名物先生 登場!

3

本学には、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に 11校の附属学校があり、いずれもそれぞれの分野でわが国の教育をリードしています。
そこには、全国でも有名な先生たちが大勢います。
このコーナーでは、各学校の名物先生を順次紹介しています。



今回の先生

筑波大学附属中学校

まき た まもる
蒔田 守 主幹教諭

Profile

東京都生まれ
国際基督教大学卒業。川崎市立川中島中学校(12年)、横浜国立大学教育学部附属横浜中学校(3年)を経て現在筑波大学附属中学校英語科教諭。98年(財)語学教育研究所パーマー賞受賞

全てを理解できなくてもいい 「Stand by me!」

本学附属中学校の1年生の教室をのぞくと、英語が頻繁に飛び交っている光景を目にした。ここで、「英語で進める英語の授業」を行っているのが、英語科教諭の蒔田守先生だ。

1年生に「by」のニュアンスを理解させるために引用されたのが「Stand by me」。映画のタイトルでも馴染みのセンテンスを使って、生徒の理解を深めていく。「動詞の『stand』が最初にあるから『立ってなさい』『立っていてくれ』。で、どこに?『by me』は『私のすぐわき』『僕の側』。だから『Stand by me』で『僕の側』にいてだね」

蒔田先生がそう言うと、生徒たちは納得の顔。すかさず一人の生徒が「蒔田先生が言ってもなあ」と言うと、ほかの生徒

たちも笑い出す。蒔田先生も「Who said that?(誰が言ったの?)」と笑顔で応え、そしてすぐに切り替えて、窓際に立てたDVDケースを指し「the movie by the window」と「by」の使い方を事例で示すと、生徒たちは元気に復唱する。

同校では「英語で進める英語の授業」によって、実践的な英語教育が行われている。英語で授業を進めることで、生徒がすべてを理解できない可能性もあるが、蒔田先生は、「生徒が僕の言葉を一言一言、常に100%理解できなくてもいいんです」と言う。

「大学で勉強した人だって、新聞の経済欄を読んで経済用語の全てを理解できるわけじゃない。それでも、おおよその中身については理解することはできます。英語も同じで、見たり聞いたり

読んだりするものが、すべてわかるという前提ではなくていいのです。わからないことは怖くない。だから間違いを恐れないこと。間違えたり、直したりすることの恥ずかしさを捨てること。それで得られるものはとても大きいです。『通じなかったらどうしよう?』ではなく『通じなかったらもう一回言えばいい』と考えて、僕は授業しています」





1年生の生徒に蒔田先生が話す英語をどのくらい理解できているのかと聞くと、「半分くらいかな?」「7~8割分かります」とのこと。わからない言葉があった時は、授業の後に蒔田先生に質問したり、自宅で辞書を使って、調べたりするのが楽しいと話す。



生徒の成長に不可欠なコミュニケーション

蒔田先生が重視しているのは、コミュニケーション。言葉というコミュニケーションツールを上手に使えるようになることは、生徒たちの成長には欠かせないものだ。「子どもたちがいつか成長し、社会に出て人と交わり、結婚して家族を持つようになる。結婚なんて、すごい異文化交流ですよ。異なった家庭環境に育った人同士で、これからの一生を暮らしていく。そりゃもうすごいものですよ(笑)。例えば、あまり得意でないタイプの人が学校にいるとします。しかし、学校は、たった3年間、しかもクラス替えも席替えもあります。結婚しろというわけじゃないのだから、そこそこの関係を築く力を付けることが、これからの自分の生活をより豊かにし、安定させる。皆から愛されて、豊かで幸せな人生になる。僕はそう確信しています」

英語を上手に使うというのは、正しくテストに答えられるということだけではなく、「この人にどう関わると、自分が楽しくなれるだろう」と相手との関係を意識することが重要だと蒔田先生は考えている。そして、その見本となるのが教師の役割であると話す。

「生徒たちが僕らを見て『これを続けていったら、豊かな人生が開けるのじゃないかな』って思ってくれるようにすることが、僕ら教師の務めです。教室で学んでいる生徒が『Stand by me!』(先生、見ていてね)って言ってくれたら、もう最高ですね」



積極的に取り組むことの大切さ

蒔田先生が「英語で進める英語の授業」に出合ったのは、都立新宿高校1年生の時だ。

「高校時代に出合った英語の授業は楽しかったですね。先生の英語が『格好いいな〜』と感じられ、わからないなりに一所懸命ついて行こうと思いました。話も素晴らしく、いろんなことも教えてくださいました。そこで魅せられたかなあとします」

その後、国際基督教大学に進学し、英語を使って英語を教えるための教授法を学び、それを核にして、現在の授業法を確立した。

「今日の授業で『who』を使いました。『え、誰?』っていう感じを持たせて、その瞬間に『who』という音を耳に入れて、尋ね方を練習し、最後に綴りを示します。

また今日初出の後置修飾は3年で学ぶ関係代名詞の基礎となる文法で、本日は3年間かけて学ぶ後置修飾を学び始めた記念すべき日です。しかし、あの子どもたちはそんなことこれっぽっちも思わずに、アハハって楽しく笑って授業を受けているわけです。英語の学習というのは、ピアノとかソロバンと同じで、授業やレッスンの時だけ先生から素晴らしい見本を見せられても、それだけではダメです。どこで上手になるかと思ったら家でおさらいしている時に技能としてできるようになるわけです。英語は、技能であり、スキルです。だから授業が理解できても、そこで止まったらもう絶対に身に付かない。何回も何回も繰り返していくと、自分がうまくできないところに気がついて、さらに繰り返していくと『ああ、ここがだめだな』と思う。自分はどういうことが分からないのかを理解できるようになって、そこを詰める自律した学習者になると、中学3年間で、どこに出しても恥ずかしくない、すごく上手な英語をしゃべるようになります」



館 潤二 副校長

英語で大切なことは「コミュニケーション」と蒔田守先生は言い切る。英語はあくまでもそのためのツールであると。先生の授業はコミュニケーションに必要なことが満載。

「喜怒哀楽」、表情豊か…、いやいやもっとリアルに、目つき、「口つき」、手振り、身振り、声の強弱、抑揚、そして中身。人と人とがどうしたら繋がれるのかという気持ちは授業だけでなく、生徒指導、同僚と

の会話でも生きている。話の内容は説得力に富む。

「筑波大学附属中学校の英語教育は日本一」と熱く語る先生の意気込みとその実力は、毎年の研究協議会で100人を超える授業見学者を集める実力者ぞろいの英語科のメンバー(肥沼・久保野・植野)と生徒との心の繋がりにも支えられている。昨年、先生が担任長として卒業生に贈った言葉は、「見えないものにこそ目を留めよう」でした。

ラグビー部

現在、関東大学対抗戦で
激闘を繰り広げているラグビー部。
4年生の強カリードで
メンタル面を強化し、
初の全国大学選手権優勝を狙う。



「徹底」をチームスローガンに、
接戦に競り勝つ精神力の強いチームに！



1924年に本学前身、東京高等師範に創部以来の伝統を誇る、国立大学最強の名門ラグビー部(中川昭部長、古川拓生監督)。昨年は、大学ラグビーの日本一を決める全国大学選手権に、4年連続15回目の出場をしたものの、一回戦で惜敗した。本年度は、U20日本代表に本学チームから6人選出されたように、全国レベルの選手が揃い、春の「東日本大学セブンズ選手権大会」(7人制ラグビー)では準優勝するなど、昨年以上の活躍を期待する声が高まっている。

「昨年度は、接戦の試合を全て落としてしまいました。いい試合をしたら満足してしまうようなチームの雰囲気があって、勝利にこだわる気持ちが足りなかったようです。そこで、本年度は、「徹底」というチーム

スローガンを掲げて、4年生を中心に、チームの意識改革を進めてきました」と、古川監督。

この春から、「接戦を勝つ」をテーマに、全国の強豪校との試合を重ねてきた。夏合宿最終日の練習試合で、全国大学選手権6度の優勝を誇る強豪関東学院大学に、22-17で競り勝ったことは、意識改革の大きな成果といえよう。

同試合の計4トライは、彦坂匡克選手(体専3年)、竹中洋選手(体専1年)の両ウイング快速コンビが奪ったもの。竹中選手は、両校優勝となった昨年の全国高校ラグビー優勝校、桐蔭学園のエースで、入学当初からメンバー入りし、活躍している。他にも、もう一方の優勝校、東福岡の水上彰太選手など、優秀な1年生が20人以上入部し、部員は総勢70人になった。

「力のある選手が入ってくることは、とても嬉しいし、部員数も増えて、とても楽しみです。でも、ラグビーは、1人のスタープレイヤーが入ったから強くなるというスポーツではありません。強くなるには、やはり、良いリーダーが必要です。実は、今の4年生が入って来たときに、この学年が4年生に

なった時に、下にいい選手が入ってきたら、強くなるぞという予感がありました。優れたリーダーの資質がある選手が多かったからです。高校を代表する選手が次々に入ってきて、結果的に、予感どおりになりました」と、古川監督は、本年度のチーム力に自信を見せる。

監督が絶大な信頼をよせるリーダーとは、キャプテン村上大記選手(体専4年)と副キャプテン中川克信選手(体専4年)。

「日本一になる」という強い決意を胸に、練習中も、試合中も、チームのメンタルを支え、強力に牽引している。

「反応しろ!」いつもも言っています。声をかけられたら、すぐにそれに返事をするのも反応ですし、指摘されたことをすぐに実践してほしいという意味もあります。そうしたレスポンスがないと、チームとしての雰囲気
気が上がって





かないので」と村上選手。中川選手は、チームの調子が良い時というのは、メンバーが気分よくやっていて、声もよく出ている時なので、「チームとして、もっともっと乗れるよ」と盛り上げて、いつもチームがいい状態で戦えるように鼓舞しているという。

現在、全国大学選手権の前哨戦、関東大学対抗戦の真っただ中。日程は、下記の通り。試合会場に駆け付け、日本一を目指して激闘を繰り広げているメンバーを、熱い応援でサポートして欲しい。

ラグビー関東大学対抗戦2011

- 10/23(日)14:00 ~ vs 早稲田大学
(ケーズデンキスタジアム水戸)
- 10/30(日)12:00 ~ vs 成蹊大学
(熊谷ラグビー場)
- 11/12(土)12:00 ~ vs 青山学院大学
(麻溝公園競技場)
- 11/19(土)12:00 ~ vs 日本体育大学
(江戸川区陸上競技場)
- 12/3(土)14:00 ~ vs 帝京大学
(熊谷ラグビー場)



前身の師範学校から135年以上の歴史を有し、オリンピックの金メダリストを始め、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会。主な競技成績および今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

[つくばスポーツ ONLINE]

<http://club.taiiku.tsukuba.ac.jp/>

[筑波大学体育会]

<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

ラグビー部

■ 第12回 東日本大学セブンズ選手権大会 準優勝

バレーボール部

■ 全日本大学男子バレーボール東西選抜優勝大会 **優勝**

【最優秀選手賞】出未田敬(体専2年) 【サブ賞】衛藤拓磨(同4年)
【ベストスコアラー賞・スパイク賞】佐々木恵三(同4年) 【リベロ賞】白石啓文(同3年)

秋季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦

9/10 ~ 10/16 日本体育大学健志台米本記念体育館 他

第64回秩父宮賜杯・第58回秩父宮妃賜杯 全日本バレーボール大学男女選手権大会
12/6 ~ 12/11 川崎市とどろきアリーナ

陸上部

■ 天皇賜杯第80回日本学生陸上競技対校選手権大会

【女子】**優勝** 3年連続21度目
【男子800m】**優勝** 中村康宏(体専3年) 1分49秒00
【女子円盤投げ】**優勝** 高橋亜弓(同4年) 50m24

第88回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会
10/15 陸上自衛隊立川駐屯地 他

柔道部

■ 第53回全国国立大学柔道優勝大会 **優勝** ※6連覇

■ 2011年世界柔道選手権大会

【女子57kg級】**金メダル** 佐藤愛子(人間総合科学研究科2年)
【女子78kg級】**銀メダル** 緒方亜香里(体専3年)
【男子90kg級】**銀メダル** 西山大希(同3年)

全日本学生柔道体重別団体優勝大会(男子13回・女子3回)
10/29.30 ベイコム総合体育館(兵庫県)

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会
11/12.13 千葉ポートアリーナ(千葉県)

ダンス部

■ 第24回全日本高校・大学ダンスフェスティバル

【創作コンクール部門】NHK賞(2位)

硬式テニス部

■ 関東学生テニス選手権大会

【女子シングルス】**優勝** 菅村恵里香(体専1年)

蹴球部

■ 第14回茨城県サッカー選手権 兼

第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会茨城県予選 **優勝**

第85回関東大学サッカーリーグ戦

9/23 ~ 12/4 ひたちなか市総合運動公園陸上競技場 他

バスケットボール部

■ 第63回全日本大学バスケットボール選手権大会

11/21 ~ 11/27 国立代々木競技場第二体育館

ハンドボール部

■ 高松宮記念杯男子第54回全日本学生ハンドボール選手権大会

11/2 ~ 6 花巻市総合体育館 他

水泳部

■ 第58回全国国立大学選手権水泳大会

【男子】**総合優勝**(20連覇)

【男子100m・200m平泳ぎ】**2冠**(100m平泳ぎ 大会新記録)若月哲也(体専4年)

【女子】総合2位

【女子100m・200m背泳ぎ】**2冠**(100m背泳ぎ 大会新記録)諸貴瑛美(同1年)

【女子100m平泳ぎ】**優勝** 小林明日香(同1年)

ね	っ	し	ー
自	然	教	育
研	究	会	

自然の中で一緒に遊ぶことを通して、子どもたちに様々なことを学んでもらうことを目的としたイベントを企画、運営。



自然の中で、楽しさと学びを！ 小中学生対象のイベント企画サークル

「ねっしー・自然教育研究会」(本多正尚顧問)というサークル名の由来は、Nature Education Clubの頭文字、NEC。ネス湖のネッシーとは関係ないものの、子どもたちが一度で覚えられる名前です。つくば近辺の小中学生に広く親しまれています。

創部31年目の現在、メンバーは、男子27人、女子17人。生物学類、生物資源学類の



学生が半数以上を占めるが、その他は、多様な分野の学生が集まっている。

リピーター続出の 大人気“夏キャンプ”

活動のベースとなるのは、週2回のミーティング。長期休暇や週末を使って、2、3カ月に1度の割合で開催する小中学生対象のイベントや、サークル内イベントなどについて話し合う。各イベントは、1、2年生の中から責任者を決め、その責任者を中心に計画、実行することになっている。

メインイベントは、夏休みに開催する3泊4日の夏キャンプ。リピーターも多く、募集定員をオーバーして抽選になることもある人気企画だ。「キャンプ地は、責任者が、下見に行ったりして、希望に合った

ところを探します。去年は、星の観察とウォークラリーができる場所に決めました」とは、昨年の夏キャンプ責任者、野原涼代表(物理学類3年)。

「虫がたくさんいるところ」をポイントに選んだこの夏は、バスで片道4時間、赤城山東麓にある花見ヶ原森林公園キャンプ場で開催。小学3～6年生の24人が参加し、ウォークラリー、虫捕り、おみこし作り、ペットボトルや紙皿の工作、キャンプファイヤー、野外ゲーム、野外炊飯や流しそうめんなどを楽しんだ。



このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、発表会、大会、ボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>



子どもたちの 安全を守るために…

「子どもたちに楽しんでもらうのはもちろんですが、自分たちも楽しくなきゃ、と思って企画しています」と、笑顔で語る野原代表だが、子どもたちの安全に関する話となると、顔が引き締まる。「キャンプ地には何度も足を運び、数日かけて予行キャンプも行います。安全対策を練り、事前説明会では、きちんと説明して、保護者が子どもたちを安心して送り出せるようにしています。それと、救命講習も毎年実施していますよ」とのこと。

当日は、目が行き届く十分な態勢で、安全を確保する。今年の夏キャンプは、1つの班に子どもが4～5人に対して、「リー

ダー」と呼ばれる学生メンバーが6～7名。子どもたちは、自分たちより多いリーダーに見守られながら、のびのびと遊ぶことができる。

サークル内イベントも また楽しい

夏キャンプの他にも、県内の施設を使った1泊2日の草木染めやパン作りなど、魅力的なイベントを定期的に開催。加えて、サークル内イベントも活発だ。今年4月以降だけでも、栃木旅行やハイキング、いちご狩り、BBQ、ホテル狩りなどを実施した他、テニス好きが集まってテニスをしたり、スポーツデーにソフトボールチームを結成して参加したり。「やりたいことは、なんでもできるサークルです。

以前は、自分が何をやりたいかをあまり考えたことがなかったのですが、やりたいことを考え、企画して、実行する楽しさを知りました」と、野原代表。サークル活動を通して、野外炊飯など、いろいろな技能や知識が身に付き、社会的にもなったという。

イベントに、OB・OGが入れ代わり立ち代わりやってくるのも“ねっしー”らしさ。そこには、卒業しても参加できる自由さと、離れがたい楽しさがある。



■ 雙峰祭

■ 第37回 筑波大学学園祭 本年度テーマ「いぶき」 10/8、9、10(場所/本学内)

■ 混声合唱団

■ 第36回定期演奏会 12/25(場所/日経ホール(東京・大手町))

■ アカペラサークル Do o - W o p

■ Christmas Live 2011 12月17日(場所/つくばカピオホール)

■ ピアノ愛好会

■ 25周年コンサート 12月3日(場所/ノバホール)(時間/13:00開演)

なでしこジャパン女子ワールドカップで優勝！ 安藤梢、熊谷紗希の両選手が国民栄誉賞受賞

本学に在籍する安藤梢(人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期課程 3年)、熊谷紗希(体育専門学群3年)の両選手は、サッカー選手と大学生という二足のわらじを履きながら努力を重ね、このたびの女子ワールドカップにおいて活躍し、なでしこジャパンの優勝に大きく

貢献しました。

また、両選手を含め、なでしこジャパンに対して、「最後まで諦めないひたむきな姿勢が国民にさわやかな感動と、東日本大震災などの困難に立ち向かう勇気を与えた」との理由により、8月18日に国民栄誉賞を受賞しました。



写真：Picture alliance / アフロ
メダルを掲げ誇らしげな安藤梢選手



写真：AP / アフロ
PKを決め喜ぶ熊谷紗希選手



写真：アフロ
なでしこジャパン

T O P

世界柔道選手権大会2011パリ大会で 本学学生、卒業生が大活躍

柔道の世界選手権2011がパリ・ベルシー体育館(フランス)で8月23日~28日の6日間で行われ、本学の学群生3人、大学院生3人、卒業生4人の10人が日本代表選手として参加しました。

連日、各階級で熱戦が繰り広げられ、本学学生が金1、銀3、銅1、卒業生が銀1、

銅1の合計7個のメダルを獲得する大活躍を見せました。

なお、今大会より団体戦が行われ、男子団体は銅メダル、女子団体は銀メダルを獲得しました。



写真：アフロスポーツ
男子90キロ級準決勝で対戦する 西山大希選手(左)と小野卓志選手



ICS



写真：アフロスポーツ
女子78キロ級決勝戦を戦う緒方亜香里選手(左)

写真：アフロスポーツ
女子57キロ級で優勝しメダルを掛けて喜ぶ佐藤愛子選手

- | | |
|-------------|---|
| 金メダル | 女子57キロ級 佐藤愛子
(人間総合科学研究科体育学専攻2年:了徳寺学園職員) |
| 銀メダル | 男子60キロ級 平岡拓晃
(人間総合科学研究科体育学専攻2年:了徳寺学園職員)
男子90キロ級 西山大希 (体育専門学群3年)
女子48キロ級 福見友子
(体育専門学群卒、人間総合科学研究科体育学専攻修了:了徳寺学園職員)
女子78キロ級 緒方亜香里 (体育専門学群3年) |
| 銅メダル | 男子90キロ級 小野卓志
(人間総合科学研究科体育学専攻2年:了徳寺学園職員)
女子78キロ超級 杉本美香 (体育専門学群卒:コマツ) |



DMATが平成23年度広域医療搬送実働訓練に参加

本学DMAT (Disaster Medical Assistance Team)が、9月1日の「防災の日」に行われた平成23年度総合防災訓練に参加しました。

訓練は、9月1日、8時に東京湾北部を震源とするM7.3の首都直下地震が発生し、埼玉県川口市で震度6強の被害を受けたという想定で進められ、(1)被災地(埼玉県)内災害拠点病院からSCU(広域搬送拠点臨時医療施設)である人間基地への域内搬送、(2)SCUから域外搬送拠点(高松空港及び新潟空港)へ

の広域搬送、(3)SCUから被災地内災害拠点病院への一部傷病者の域内搬送、(4)域外搬送拠点(高松空港及び新潟空港)から被災地外受け入れ病院までの患者搬送を実施し、九都県市合同総合防災訓練と合同で行われました。

本学からは、DMATメンバーとして、安田貢講師(人間総合科学研究科、救急・集中治療部副部長)、高橋伸二講師(人間総合科学研究科、病院教授)、小笹雄司附属病院副看護師長、澤田幸子附属病院副看護師長および赤星博和附属病

院臨床工学技士が、また、協力者として、水谷太郎教授(人間総合科学研究科、救急集中治療部長)が参加しました。



T O P

平成23年度第2学期入学者入学式



8月29日、大学会館国際会議室において、平成23年度第2学期入学者入学式が行われました。

入学者は、学群学生35人(第2学期推薦入試(帰国生徒特別選抜)入学者13人、G30入学者22人)、大学院学生90人(外国人留学生52人)(博士前期課程30人、博士後期課程20人、一貫制博士課程1人、3年制博士課程3人、専門職学位課



程36人)で、うち学群学生35人、大学院学生39人が入学式に出席しました。

また式終了後、応援部WINSから新入生にエールが送られました。

山田信博学長と附属11校 PTA会長らが懇談会

7月9日13時～15時、山田信博学長と本学附属学校11校のPTA会長会との懇談会が附属大塚特別支援学校で開催されました。大学側からは、附属学校教育局の東照雄教育長、澤田佳代学校支援課長が出席し、附属学校側からは、各校PTA会長9人、副会長5人、副校長9人と会場校の藤原義博校長を含め総勢24人が集まりました。

附属学校のPTA会長らが全体で会合をもつことは初めてですが、学長と11附属PTAと懇談することも開学以来初めての画期的なことです。

懇談会では、多岐にわたって意見交換が行われ、有意義な会となりました。次回は、附属坂戸高校で開催する予定です。



ICS

福島県いわき市と震災復興に 向けた連携・協力協定を締結

8月10日、福島県いわき市役所において、「震災復興に向けた連携及び協力に関する協定」の締結を行いました。

本件は、平成23年5月に立ち上げた「筑波大学東日本大震災復興支援プログラム」の8プロジェクトのうち、村尾修准教授(システム情報工学研究科)が代表を務めるプロジェクト「いわき市における震災復興活動のための学術的支援と自

治体職員・住民を対象とした復興支援連続セミナー」に

関して、協定を締結するものです。

当日、いわき市から、渡辺敬夫市長、伊東正晃副市長、大和田正人行政経営部長、前田直樹復興監が、本学から、山田信博学長、赤平昌文副学長、村尾准教授が出席し、両者で連携・協力を強化していくことを確認しました。





中島孝実行委員長
(システム情報工学等技術室)

本学の地域貢献の一環として、8月6～7日に「夏休み自由研究お助け隊」が実施された。中学生の夏休みの自由研究について、本学の技術職員の技術を用い、制作、実験、測定、調査方法の指導や助言を行うという毎年好評の企画。

8回目となる本年は、つくば市内外54校から150人ほどの生徒が参加した。

「今年は、化学や工学、医学、農学他、さまざまな分野から18のテーマを提供しました。講義するのではなく一緒にやる、という考えから、生徒は一つの班に5人まで。この時間だけで完結させるのではなく、ここで作った装置を使って、家で継続して計測できるようにしたり、類似の実験ができるように資料を渡したりして、自分で考えながら研究を発展させることができるように工夫しています」(中島孝実行委員長システム情報工学等技術室)。また、開催期間以降も、質問に対応している。

「住んでいる市には、20以上の大学が

ありますが、このような企画をしている大学はないので、両親に連れてきてもらいました」と、八王子から2年連続して参加した中学2年生。昨年、ここでの研究をまとめた夏休みの自由研究で、八王子市立中学校“科学コンクール”に入賞したという。

独自のテーマでの参加も可能。本年は、「吹き溜まりのできるわけ」という応募テーマに対し、松内一雄教授(システム情報工学研究科構造エネルギー工学専攻)が指導して、本学の設備を使用して実験した。

スタッフは、46人で対応している。当日の多忙はもちろんのこと、実験用具や材料、資料を揃えるなどの準備作業も非常に煩雑だが、「過去の参加者には、本学に入学した生徒もいます。参加した分野への興味や関心を持たせることによって、将来の日本を担う人材が育つことを願っています」(中島委員長)と、熱い思いを胸に、さまざまな分野の技術職員が一丸となって取り組んでいる。



●主な受賞等一覧

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
The 66th Calorimetry Conference James J. Christensen Memorial Award	齋藤一弥教授 (数理工学研究所 物質創成先端科学専攻)	_____
公益財団法人日本リウマチ財団平成23年度ノバルティス・リウマチ医学賞	松本功准教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻)	_____
Cryogenic Engineering Conference 2011 Russell B. Scott Memorial Award (Best Research Paper)	村上正秀名誉教授 高田卓助教(システム情報工学研究所 構造エネルギー工学専攻)	_____
社団法人発明協会 平成23年度全国発明表彰 21世紀発明 〃 貢献賞 〃 奨励賞 〃 奨励賞	山田信博学長 江面浩教授(生命環境科学研究科 生物圏資源科学専攻 遺伝子実験センター) 野中聡子助教(生命環境科学研究科 生物圏資源科学専攻 遺伝子実験センター)	_____
平成23年度日本医学放射線学会研究助成	磯辺智範准教授(人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻)	_____
the top 10 posters of the 84th Annual Meeting of JOA (第84回日本整形外科学会学術集会 the top 10 posters)	馬見塚尚孝講師(人間総合科学研究科)	_____
Best Paper Award (国際会議WORLDCOMP'11)	西川博昭教授(システム情報工学研究所 コンピュータサイエンス専攻)	_____
Elly D. Friedmann Award (ISAPA2011)	中田英雄教授(人間総合科学研究科 障害科学専攻)	_____
日本デザイン学会グッドプレゼンテーション賞	西川潔副学長・理事 山本早里准教授(人間総合科学研究科 芸術専攻)	_____
2011年度全国英語教育学会賞(学術奨励賞)	卯城祐司教授(人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻)	_____
日本武道学会第44回大会優秀論文賞	増地克之講師(人間総合科学研究科 体育学専攻)	_____
2011年度素粒子メダル功労賞	岩崎洋一名誉教授	_____
第23回セゲト国際聖書学会・会友表彰	秋山学准教授(人文社会科学研究所 文芸・言語専攻)	_____
養護教諭制度70周年記念学校保健功労者文部科学大臣表彰	近藤とも子養護教諭(附属中学校)	_____
平成23年度日本老年精神医学会奨励賞	河野禎之(人間総合科学研究科 障害科学専攻 博士後期3年)	山中克夫准教授 (人間総合科学研究科 障害科学専攻)
財団法人日本英語検定協会第24回(2011年)英検研究助成研究部門入選	名畑日真吾(人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻 博士前期2年) 長谷川佑介(人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻 博士前期2年)	卯城祐司教授 (人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻)
日本デザイン学会グッドプレゼンテーション賞	工藤真生(人間総合科学研究科 芸術専攻 博士後期2年)	山本早里准教授 (人間総合科学研究科 芸術専攻)
Distinguished Young Researcher Award	池田光雪 (図書館情報メディア研究所 図書館情報メディア専攻 博士前期1年)	鈴木伸崇准教授 (図書館情報メディア研究所 図書館情報メディア専攻)
2011年度全国英語教育学会賞(学術奨励賞)	甲斐あかり(人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻 博士後期3年) 清水遥(人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻 博士後期3年) 名畑日真吾(人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻 博士後期2年) 長谷川佑介(人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻 博士後期2年)	卯城祐司教授 (人文社会科学研究所 現代語・現代文化専攻)
第30回日本思春期学会総会・学術集会優秀演題賞	道喜将太郎 (人間総合科学研究科 生命システム医学専攻 一貫制博士1年)	松崎一葉教授 (人間総合科学研究科 生命システム医学専攻)
平成22年度日本スポーツ産業学会学会賞	笠野英弘 (人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期3年)	菊幸一教授 (人間総合科学研究科 スポーツ健康システム・マネジメント専攻)

※所属、職名、学年は受賞年時

第1回「ダ・ヴィンチ電子書籍アワード2011」大賞を受賞した、グラフィック・クリエイター森川幸人さん(芸術専門学群・84年卒)に、大学時代の思い出や受賞までの経緯などを伺いました。



もり かわ ゆき ひと 森川幸人さん

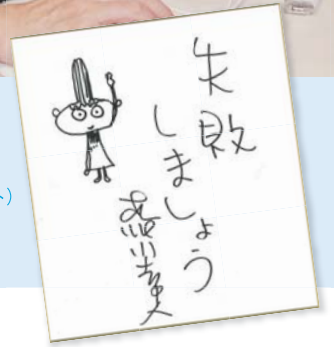
(株)ムームー取締役社長/グラフィック・クリエイター

プロフィール

- 1959年 岐阜県生まれ
- 1984年 筑波大学芸術専門学群卒業
- 1995年 有限会社ムームー設立
同取締役社長就任
- 2007年 株式会社ムームーに商号変更
- 2011年 「ダ・ヴィンチ電子書籍アワード2011」大賞受賞

代表作

- 「アインシュタイン」「ウゴウゴルーガ」(テレビ番組CG)
- 「がんばれ森川君2号」「アストロノーカ」「くまうた」(ゲームソフト)
- 「テロメアの帽子」「ヌカカの結婚」(書籍・iPhoneアプリ)



株式会社ムームー <http://www.muumuu.com/index.html>

— まず初めに、本学の芸術専門学群に進学した理由から教えてください。

進学校の理系クラスにいて、大学では物理系に進むつもりでした。3年生の初めに、「これからはスペシャリストの時代だ」「自分の特技を生かせ」というような新聞記事を読んで、突然、「絵でいこう」と決めました。美術系の学校に進学するには、準備する時間が足りないし、地方にいて、絵を勉強するところもなかったのので、実際の試験では、「鉛筆淡彩」という試験課題の言葉の意味さえわからなくて困り

ました。入れたのは本当にラッキーでした。

— 入ってから苦労はしませんでしたか？

苦労というか、絵といえば油絵しか知らなかったから油絵を専攻したのですが、やってみたら自分の性に合わなくて。2年生からは専攻を変え、エディトリアル・デザインを勉強して、6年かけて卒業しました。途中で専攻を変えられる自由な大学でよかったと思います。

— 6年かかったのは？

大学3~4年生の頃は、遊んでいて、ほ

とんど学校に行かなかったんです。でも、ある時、「社会に出る勇気もなく、学生という身分に甘えながら、学生としての本分も守らないというのは間違っている」と、亡くなられた大辻清司教授に一喝されて、大学に戻りました。最後の2年は、先生の近くにいたい、という思いで過ごした感じです。

— 卒業後のお仕事の変遷について教えてください。

学生時代から、すでに、イラストやレイアウトの仕事をしていました。30歳を過ぎ



ヒットしたゲームソフト1作目「がんばれ森川君2号」(1997年発売開始)。ゲームソフトとAI(人工知能)を勉強して制作したため、2年を費やした。AIを本格的に搭載した初のゲームソフトとして、人工知能学会からも注目を集める。

(C)1997 Sony Computer Entertainment Inc.



昆虫の性行動を擬人化した絵本(株新紀元社刊)。2010年に電子書籍化。電子書籍アワード大賞を受賞した絵本3部作の1つ。

た頃、2年先輩の石原恒和さん((株)ポケモン社長)から10年ぶりくらいに、「フジテレビがCGを作るから手伝ってくれないか」と電話がかかってきたんです。コンピューターを触ったこともなかったのに、それまでの仕事に飽きていたこともあって、引き受けました。やり始めると、コンピューターで、アニメが簡単に作れることが面白くて、夢中になりました。

— ポケモン社長の石原恒和さんには、本誌3号でご登場いただきました。大学は、学ぶ場だけでなく、出会いの場というのを実感しますね。

石原さんには、学生時代に、よく遊んでもらいました。写真家の畠山直哉さんとか、メディアアーティストの岩井俊雄さんとか…いろいろな専攻から気の合う学生が集まって、ワイワイやっていました。当時の仲間は、今でも、家族みたいな感じです。

— フジテレビで作ったCG番組というのは？「IQエンジン」「アインシュタイン」「ウゴウゴルーガ」などを制作しました。CG制作を4~5年続け、そろそろ飽きたなあ、と思っていた頃に、今度は、ソニーがゲーム機を立ち上げるので、ゲームソフトを作らないか、と声がかかったんです。作ったこともないし、それほどゲームで遊んだこともないのに、また引き受けてしまいました。再び一から勉強し、一作目のゲームソフト「がんばれ森川君2号」を販売開始するまでに、2年もかかりました。

— CG制作の時も、ゲームソフト制作の時も、順調な仕事を捨てて、なぜ、未経験の分野に挑戦したのですか？

仕事に飽きた頃というのは、作業も順調で、無駄を省くこともでき、世間の評価



も高くで…一番コストパフォーマンスがいい状態なんですけど、その時に、思い切ってやめる。飽きたら、やめなくちゃいけないと思ってます。一般の社会で、飽きたというのは、非常によくないことのように言われていますが、アートの世界では、飽きる力というのは、大事な力。それまで、すごく燃焼してきたということですから。

— 現在、熱中しているものは何ですか？

ゲームソフト制作は、ハードがどんどん進化していき、チャレンジできることがどんどん増えていくので、自分としては長続きしていますが、今、特に、楽しくてしょうがないのは、電子書籍、ゲーム、ツールなど、スマートフォンのアプリ製作です。

— 2010年4月に配信開始したiPhoneアプリの電子書籍「ヌカカの結婚/テロメアの帽子/カルシノの贈り物(絵本三部作)」が、「電子書籍アワード2011」の大賞に選ばれましたね。栄えある第一回目の大賞受賞、おめでとうございます。

ありがとうございます。大賞を受賞できたのは、「作ったことないけど、作るんだ」って、エイヤッ!と作ったからということが大きいと思ってます。周りは、電子書籍という新しい分野に踏み出すことに、躊躇していたんですよ。市場の動向を見て、状況を分析してから判断しようとする、その分、遅れますよね。直視力も鈍りますし。

慎重に判断していたら、出遅れて、うまく注目されなかったかもしれません。

— 7月には、本学の未来構想大学講座「創造学群表現学類~OBOG指導によるクリエイティブ体験講座」の講師としてiアプリに関しての授業をしていただきました。母校で講義をするというのは、どう感じですか？

大学の手伝いができるというのは、嬉しいんですよ。すごく、恩返しができるという感じがして。学生さんは、みんな熱心に参加してくれて、すごいなと思いました。参加意識が高くて、やっている側はすごく気持ちよかったです。

— 本学の学生と接してみて、伝えたいと思ったことはありますか？

まとめる力は高いのですが、大胆さがちょっと足りないような気がします。受験も大変だったんだろうし、就職も大変なので、失敗ないように、失敗ないように、という方向に思考しやすいのかもしれませんが、失敗を恐れて、縮こまってしまうのはよくないと思います。学生時代は、失敗が許される時なので、その時期にたくさん失敗しておいた方がいい。意外に、失敗したことが後で役立ったりもするものです。私自身は、これからも今まで通り、失敗を恐れず、自分の直感のまま、熱中できる仕事をしていきたいと思っています。



iPhone用の電子書籍アプリ第3弾。ガンと免疫の仕組みを擬人化した、書き下ろし作品。

©2010 muumuu



iPhone用のゲームソフト「アニマル・レスキュー」(2010年配信開始) 檻に閉じ込められた動物を救うアクション・ゲーム

©2010 muumuu



病院総務部経営企画室
新田智弘さん

趣味はサッカーで社会人チームに所属しています。小6の息子も小学校のサッカーチームに所属し、最近では審判資格をとって子どもの試合で審判をしたりして、親子のコミュニケーションにも役立っています。親バカですが、息子のサッカーはかなり上達して、息子に負けているかもしれません。気持ちだけは負けない!と意気込んでみても、実際の試合では0.1トンの身体の数m先を幻(気持ち)だけが疾駆していく状態です。そうして試合後の数日間は筋肉痛と戦っています。今の目標(夢)は、フルに動ける体力と気持ちに置いてきぼりにされない、そんなスリムな身体になることです。

今回は、附属学校教育局学校支援課(附属高等学校)の富樫晶子さんです。「採用当時からほんとに変わっていません(ような気がします)。初心を忘れないまじめさには頭が下がります」



数理物質科学等支援室
草野富美江さん

大学に勤めて成人式?を迎えました。最近楽しんでいるのが、消防車のペーパークラフトとイバライガーR。「はしご車ってこんな造りなんだ♪」ポンプ車に救急車…。作っていると意外な発見があるのが魅力。ちょっと曲がったりして(笑)完成したら、友達の子供にプレゼントします。子供の頃から、ヒーローものが好きでした。私のココロのピンチをキャッチした!?!とある昼下がり。時空を越えてスチューデントプラザ前に現れたイバライガーR!ご当地ヒーローなのにカッコイイ☆☆☆☆近くにいると思うだけで、元気がでます♪仕事で疲れた時に、また現れて欲しいです。

今回は、数理物質科学等支援室 大島教子さんです。「仕事でも趣味でも、ずっとお世話になっています。名車86に乗っていたスリットと爽快な女性です☆」

リ シ ー イ ッ セ イ >>>



人間総合科学研究科
生命システム医学専攻
助教
吉野 聡さん

我が家の最近2歳になったばかりの愛娘が動物園や水族館にハマりまくっています(^ ^)夏休みに家族で行ったパンダの繁殖で有名なアドベンチャーワールド(和歌山県白浜町)では、なんとゾウやキリン、サイやライオンにまでえさやり体験ができています。まだ言葉覚えてたの娘が「ゾウさんがお腹すいたって言うてるよ。バナナあげよう」って大興奮でした。いまはどこの水族館や動物園にいても、昔にはなかったような工夫が凝らされており、大人も存分に楽しめるようになっていきます。皆さんもたまには休日に動物園や水族館で癒されてみてはいかがですか?

今回は、附属桐が丘特別支援学校 養護教諭の関塚奈保美さんです。「私が産業医を務めている附属桐が丘特別支援学校の養護教諭です。生徒の健康を一番に考える優しい先生です」

教育推進部教育推進課
関 瑞穂さん

現在小3の息子が小学校入学の時に、少年野球チーム「谷田部ジュニアスターズ」に入団しました。息子の練習を見学していたら、ちょっと手伝って、ということでコーチの補助をするようになり、そのまま今年から低学年のコーチになってしまいました。なんかはめられたような感じがしますが、自分の運動不足も補いつつ、毎週末、楽しくやっています。同じ課に、常勝軍団「宗道ニューモンキーズ」の監督である羽子田誠さんがおり、素人の私はいろいろと教えてもらっています。将来は、甲子園!プロ!なんて夢は見ません。高校野球でプレーする息子を応援するというのが、今のささやかな夢です。



今回は、附属学校教育局学校支援課の佐藤雅代さんです。「彼女の実家が同じ地区で、幼稚園〜高校まで一緒。しかも、小6〜高1まで同じクラスでした」

医学系技術室
阿部まゆみさん



タイ王国の魅力に魅せられて、何度か遊びに行っています。タイの魅力は沢山ありますが、果物もその1つ。マンゴー、ライチ、マンゴスチン、ポメロ、ランブータン、竜眼などなど。ところが、沢山売られているのに旅行者がなかなか食べられない果物があります。それは『ドリアン』です。果物の王様と称され、タイでも大人気なのですが、その特有の匂いのためにホテルやバス、タクシー等には持込み禁止です。買うことはできても食べる場所がなかなか無いのです。最近は日本でも手に入るの、私は自宅で楽しんでます。ちなみにドリアン解体歴20回あまり。今ではナイフを使わずにむく事ができるまでに上達しました。

今回は、附属図書館情報サービス課の原澤仁美さんです。
「職員バレー部で汗も涙も一緒に流した仲です。右利きなのに器用なライト打ちで、度々ピンチを救ってくれました」

施設部施設整備課
丹羽樹乃さん



採用となって半年が経とうとしています。震災の復旧等で目まぐるしい日々を送っておりますが、その忙しさのお陰で職場の雰囲気にも早く慣れることができたのではないかと感じております。しかし、忙しいですが飲みには行っております。写真は施設部の若手職員の方々との飲み会のワンシーンです。私の地元は水戸なのですが、是非皆さんにオススメの一杯があります。水戸のBARで一度飲んでからずっとはまっています。“水戸ハイボール”つまりハイボールに梅干を入れます。つぶして混ぜて下さいね。練り梅でもO.K.です。入れ過ぎると塩辛くなってしまうのでご注意ください。

今回は、施設部施設サービス課の板谷聡さんです。
「オシャレでダンディーないでたちからは想像出来ませんでした。施設部BBQの時の三角巾にエプロン姿はかわいすぎでした」

TSUKUBA COMMUNICATION

人間総合科学研究科
芸術専攻
准教授
田中佐代子さん



一年くらい前、つくば市のはずれにある今の家に引っ越しました。家の前には大きな池があって、とても景色のよいところ。今年の夏は、アサガオのタネをたくさん蒔いて、グリーンカーテン作戦を遂行しました。毎朝いっぱい咲く、いろいろな色のアサガオを眺めるのが、楽しみです。そのアサガオはなかなか評判がよく、犬の散歩などをしているご近所さんが、通りすがりに「きれいだねー」と言ってくれます。来年の夏はユウガオやフウセンカズラにも挑戦したいと思っています。ところで、私がアタマにのせているのは彫刻家の夫の石作品です(写真↑)。

今回は、生命環境科学研究科 生物科学専攻 教授の和田洋さんです。
「サイエンスイラストレーション課題を助けていただいています。今年もよろしくお願いします!」

人間総合科学研究科
理療科教員養成施設
准教授
宮本俊和さん



趣味は歩くことです。週の半分は、東京キャンパスなので、茗荷谷近辺を朝散歩しています。キャンパスは江戸時代の代表的な庭園の占春園に隣接していますが、ほとんど人をみかけません。近くには、小石川植物園もあります。「二つの庭は、今は暗渠となっている小石川(千川)の水を引いていたのかな。印刷工場や製紙工場があるのは、この水を利用していたからかな。本郷に出版社が多いのはそれが理由かな」などと想像を巡らせます。夜は愛犬のりゅう君と家の近くの田圃を歩いています。筑波山が見え、綺麗な星と虫の音に囲まれていると万葉の時代に彷彿とさせている感じがします。

今回は、附属学校教育局学校経理課の須賀信介さんです。
「キャンパス移転では大変お世話になりました。息抜きにお茶のみに来てくださいね」

第1回
お気に入りの
スポット

ちょっと一息入れたいときに行くところ、仲間たちとわいわい集まるところ…
大学構内や周辺で、あなたのお気に入りのスポットはどこですか？第1回目の今回は、「お気に入りのスポット」というテーマで100名の方にアンケート調査しました。

人気の学内スポット

◇学生～石の広場と芝生のスペース、文化系サークル館、図書館、粉とクリーム、松美池

◇教職員～ループ道路、植物見本園、石の広場と芝生のスペース、松美池、天久保池

石の広場と芝生のスペースは、学生、教職員に共通して人気が高く、読書や昼寝をする憩いの場所として、広く愛されています。

学生は、文化系サークル館の他、**学生控室**や**研究室**など、みんなが集まる場所の記載が多く、**総合研究棟Aの芝生の7階テラス**は、穴場スポットのようです。

飲食スペースでは、粉とクリームの他、**スターボックス**、**二学食堂**が人気でした。

教職員のみなさんは、四季折々の風景に心を癒されているようで、これからの季節に紅葉が素晴らしい**ループ道路**や、**池周辺**の他、**図書館上層階**から見る筑波山と大学の建物の風景や、**本部棟8階**から見る雑木林と筑波山など、お気に入りの絶景スポットがありました。松美上池のほとりにある「**太気**」像の**コスプレ**を楽しみにしている方もいました！

人気の学外スポット

■ 自然編

◇学生～**松見公園**、**筑波山**、**宝鏡山**、**天久保公園**、**東大通り沿いの並木**、**りんりんロード(サイクリング道路)**

◇教職員～**筑波山**、**松見公園**、**洞峰公園**、**二の宮公園**、**東大通り沿いの並木**、**中央公園**

「公園のまちつくば」らしく、学生、教職員とも、たくさんの公園がピックアップされていました。

その他、学生には、**イース**、教職員には、**つくば美術館**、**つくば市立中央図書館**、**エキスポセンター**も人気があります。

■ 飲食店編

飲食店は、学生の回答で、**フィンラガン**(スコティッシュパブ)、**灯禾軒**(居酒屋)、**らんぷ**(喫茶店)に人気が集まった他は、個々の好みに分かれました。ある女性教職員のおすすめは、筑波大出身ご夫妻の「**もっくんカフェ**」(ベルギーワッフル・コーヒー・ハーブティの移動カフェ)でした。



総合研究棟A 7階テラス
芝生が美しい総合研究棟Aの7階テラス。
学内から筑波山まで一望でき、気分爽快。



植物見本園
2ha(600坪)ほどの敷地に、約300種類の植物が集められている植物見本園は、一般にも開放され、市民の憩いの場となっている。東屋(写真)では、学生が三味線を練習する姿も…。園内は20のゾーンに分かれ、秋のお勧めは、紅葉や赤い実がきれいな「おちばの森」。



Brasserie & Bar finlaggan
本学学生が客の半数を占めるというフィンラガン。生ビール8種、グラスワイン12種等が500円～、イギリスのパブ料理とともに楽しめる。お勧めは、沼津在住のアメリカ人、ブライアン・ベアード氏が醸造したクラフトビール。



もっくんカフェ
ベルギーワッフル・コーヒー・ハーブティの移動カフェ
出会いは大学院の研究室という川村ご夫妻。自家製ワッフル、パン、ジュースは、全てこだわりの材料を使用している。火曜日は、カスミテクノパーク桜店の脇、水・土・日には、クレオスクエアキョウト前で営業。(その他の営業場所・営業時間は、<http://ameblo.jp/colomockle/>参照)

今号から、本学を内外から応援(サポート)していただいている、団体を紹介いたします。
第1回目は、資金的な援助を目的に設置された
筑波大学基金「TSUKUBA FUTURESHP」を紹介します。

TSUKUBA FUTURESHP

筑波大学基金

筑波大学基金(TSUKUBA FUTURESHP)は、未来の社会を背負って立つ学生一人一人がその能力を十分に発揮できる環境整備の一環として、平成22年4月に創設されました。皆様からの温かいご寄附を財源として、本学に学ぶ学生が国際社会の中で生き活きと活躍するリーダーへと育てていくために、「学生への経済的支援」、「学生への国際交流支援」、「大学と卒業生の交流支援」などに充て、息の長い支援活動をしてまいります。皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、末永いご協力をお願い申し上げます。

東日本大震災による被災学生への緊急支援

東日本大震災による被災者の皆様には、心からお見舞い申し上げます。

我が国に未曾有の災害をもたらした東日本大震災による筑波大学被災学生への義援金募金にあたり、数多くの皆様から温かいご支援を賜りました。ご支援をいただきました義援金の合計額は、個人713件、法人32件、合わせて745件、合計22,117,127円にのぼる金額となり、次とおり支給させていただきました。心から御礼申し上げます。

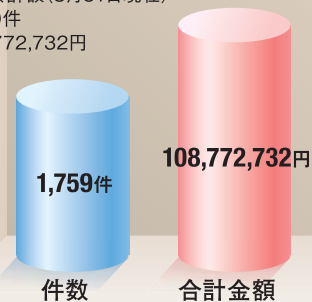
第1次支援:81名の学生に対し、合計16,200,000円の奨学金(一時金)を支給
第2次支援:16名の学生に対し、合計

3,200,000円の奨学金(一時金)を支給

※なお、残額については、被災学生への継続的な支援のための財源として有効に使わせて頂きます。

筑波大学基金情報 (TSUKUBA FUTURESHP)

基金累計額(8月31日現在)
1,759件
108,772,732円



8月のご寄附状況

154名の方々から4,636,610円のご寄附を賜りました。そのご厚志に対しまして感謝を申し上げます。



お問い合わせ

筑波大学基金事業室

TEL:029-853-2178 FAX:029-853-6576

<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>

本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

[茗溪会とは] 社団法人茗溪会(西野虎之介理事長)は、筑波大学同窓会を母体とする公益法人で、1882年に設立されました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校(東京教育大学、東京文理科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など)の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4000人を数え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

筑波大学支部の高大連携事業 「茗溪学園高校キックオフ講演会」

茗溪会筑波大学支部では筑波大学の後援を受け、茗溪学園が行うスーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の開始を記念して、7月20日(水)高校1年生全員を対象に将来の進路選択を考える機会を提供しました。

初めに大澤義明教育社会連携推進室長から筑波大学からの支援に関する紹介があり、続いて清水一彦教育担当副学長および佐藤忍茗溪会筑波大学支部長が、「大学とは何か、大学で何をどう学ぶのか」に関する講演を行いました。さらに、

西川潔学生担当副学長および中田和人生命環境科学研究科教授から「標識(サイン)」と「ミトコンドリア」に関する研究の紹介がありました。

その後、全生徒が9会場に分かれ、各学群に所属する教員および学生が筑波大学の学群・学類の紹介を行い、その後の懇談も含めて筑波大学の教育や大学生生活の理解を深めました。



大学での教育を語る清水一彦教育担当副学長



人文・文化学群の説明をする小野正樹准教授



学生団体の代表

茗溪会の学生支援金

茗溪会は母校への支援事業の一つとして学生活動支援金を出していますが、9月12日に交付式を行い、今年度の支援団体および個人に、江田昌佑茗溪会副理事長から決定通知書が手渡されました。

今年は学内学生の17団体と1個人が申請しましたが、8月31日の審査会で12団体と1個人が選ばれ、総額約300万円の助成が決まりました。

選ばれた団体には、学園祭における「院生プレゼン

バトル」などで研究科の枠を超えた横断的な学術研究企画をすすめている「つくば院生ネットワーク(TGN)」や、「筑波学生文芸賞」を募集・選考し冊子を発行している運営委員会などがありました。

今年の支援団体は次のとおり。

○斬桐舞 ○硬式野球部 ○サイクリング部 ○ダンス部 ○バドミントン部 ○ライフセービング部 ○芸術系サークル連合会 ○応援団WINS ○つくば院生ネットワーク(TGN) ○HSC aT ○ふるさとつくばゆいまつり学生事務局 ○筑波学生文芸賞運営委員会 ○木原洋一(地域における体操教室の実践)

茗溪会のつくば公開講座(予告)

10/29(土)14:00～
筑波大学学生会館

絶滅を生きのびた生物
～化石から見た地球環境変遷～

講師 上松 佐知子
筑波大学准教授(地球進化科学)

11/12(土)14:00～
筑波研修センター

【藤原教授の英語のはなし第4弾】
平安時代の英語は面白い

講師 藤原 保明
聖徳大学教授、筑波大学名誉教授



個人の部で支援が決まった木原洋一さんの「体操教室」のようす

本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

【紫峰会とは】 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業（援助金の支給など）、学生生活支援事業（緊急貸付金、コピーサービスなど）、広報・普及事業（紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など）です。学生の保護者、卒業生とそのご父母の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。

運営支援事業～その2・課外活動資料室による情報提供～

運営支援事業は、紫峰会の課外活動助成事業の中で、財政支援事業と並び、車の両輪ともいえる重要な役割を果たしており、その柱として「会計面接」と今回ご説明します「課外活動資料室による情報提供」があります。

課外活動資料室とは

課外活動資料室は、三系・全代会役員などを経験した学生ボランティアで構成されています。1984年1月『課外活動十年史』編纂のため、大学院生などが集まったのが始まりで、当時は「課外活動史編集世話人」と呼ばれていました。1993年以降は、課外活動白書（以下、白書）発行による現役学生への情報提供を活動の柱として現在に至ります。これまでの活動実績は次の通りです。

- ・『課外活動白書』の発行（1993年以降ほぼ毎年発行）
- ・『学園祭論集I』の発行（1998年）
- ・『紫峰会創立二十周年記念誌』の編集（1997年）
- ・雙峰祭展示企画「学園祭検証委員会」への

資料協力、および座談会「これからの学園祭」を開催（1993年）

課外活動白書とは

白書発行の目的は、筑波大学における課外活動団体や学生組織の一年間の活動について概要を記録し、将来よりよい活動を行うための資料とすることにあります。学生の組織や団体では毎年代替わりがありますが、引継ぎがなかったり、あったとしても設立当初からの歴史が正確に記録されていることは殆んどありません。白書作成の意義はそこにあり、1993年から発行されている白書には、ほとんどの課外活動の資料が収まっています。自分の所属する団体の歩みを知る事は、現在の団体運営を行う上で大変価値のあることであり、新しいことを始めるにあたり、過去を学ぶことから知恵を得ようとする「温故知新」の精神はとても大切なことです。

課外活動資料室の新たな取り組み

つくばエクスプレス開業に伴う交通網の整備により、近年は遠隔地からの通学者が増加しました。また、携帯電話やWebの発展による



課外活動資料室のミーティングの様子

コミュニケーション手段の変化により、深い人間関係が求められる課外活動に参加しない学生が増加傾向にあります。また、課外活動に参加してもすぐ辞めてしまう学生も多いようです。「上下関係が希薄すぎる」「後輩の心が分からない」など、現役学生の生の声に応えるため、今年度よりサークル運営ノウハウ雑誌『UTlife』を発行しています。創刊号は「新入生を迎えるためのノウハウ特集号」です。資料の編集作業に留まらず、より現役学生に近い立場から意見収集を行い、団体がスムーズに運営できるようなサポーターとしての取り組みも、今後は増えていきそうです。

後援事業成果報告

INTERFLOW2011を終えて

7月15～22日、筑波大学バドミントン部は香港大学バドミントン部との交流事業“Interflow”を行いました。目的として①異文化理解②自国文化の相対化③コミュニケーション能力の向上④ホスピタリティー精神の向上⑤バドミントンに関する研究とその普及という5点を掲げ、夏休みに行われています。前顧問教員の阿部一佳先生の香港大学との友好関係をきっかけとして1980年に始まり、30年以上も継続してきました。紫峰会からは特別援助金を頂いており、これも事業継続の大きな力になって大変感謝しております。

Interflowでは、日本・香港を毎年交互に訪問します。今年は日本での開催予定でし

たが、震災の影響で香港側に急遽ホスト側をお願いすることになりました。バドミントンの技術交流はもとより、寝食を共にしたり、エクスチェンジクッキングなどで食文化理解を進めるなど、様々な工夫がなされました。香港大の学生は短い準備期間の中でプランを整え、しかも震災による被災者や私達のことを大変心配してくれていました。その気持ちに応えられる英語力がないことがとてもはげしく、語学力の一層の向上に努めようと思いました。

震災の影響を乗り越え、互いに協力しながら交流し、例年以上の大きな成果を得られたと思います。この成果を今後の生活にも生かしていきたいです。（小澤千重／体育2年）



上：香港空港到着ロビーにて
左下：エクスチェンジクッキングで日本の料理を説明する部員
右下：体育館での練習試合の様子

本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(6月~9月)

● 新聞記事一覧

	記事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	日本オリンピック委員会(JOC)の新理事に、本学山口香准教授が就任	山口香准教授(人間総合科学研究科)	毎日(6.16/6.22) 日本経済(6.16/6.22) 茨城(6.16/6.22/7.1) 読売(6.22) 産経(6.22) 朝日(6.22) 東京(7.6)
2	東日本大震災の被災支援に取り組む本学学生のボランティア団体「Tsukuba For 3.11」が、本学でパネルディスカッションを開催	奥村政佳(OB アカバグループ[RAG FAIR]) 中川遼太(生命環境科学研究科 博士前期2年) Tsukuba For 3.11(本学被災支援団体)	茨城(6.17)
3	アクアワールド県大洗水族館が、本学と、亀印製菓の産官学連携で開発した初のオリジナル商品「どらまんボウ」の発売を開始	蓮見孝教授(人間総合科学研究科) 木村浩准教授(人間総合科学研究科)	常陽(6.19) 産経(6.20) 茨城(6.18)
4	本学は節電目標として、前年比25%削減を目指す。学内の電力消費状況を1時間単位でインターネット上に開示する節電システム「TEMS」も開発	鈴木健嗣講師(システム情報工学研究科)	日経産業(6.21) 読売(6.24) 茨城(6.24) 常陽(6.24)
5	本学は「つくばグローバル・イノベーション推進機構」を設立。自治体などと、研究開発事業を連携して進める「国際戦略特区」申請へ	山田信博学長 森本浩一副学長 つくばグローバル・イノベーション推進機構	毎日(6.24) 日本経済(6.25) 茨城(6.28) 常陽(6.29)
6	本学と虎ノ門病院の研究チームが、2種類の血液検査の値から、糖尿病予備軍を正確に判定できることを発表	曾根博仁教授(人間総合科学研究科) 平安座依子(人間総合科学研究科 一貫制博士1年)	日本経済(6.26) 毎日(6.26) 茨城(6.26) サンスポ(6.26) 朝日(6.30)
7	▽これが言いたい: 渡邊信教授「藻類燃料」国家戦略の擁立を	渡邊信教授(生命環境科学研究科)	毎日(6.30)
8	本学・八木勇治准教授が、茨城県を含む北関東沖で、巨大地震の可能性が大きくなっているという研究結果を発表	八木勇治准教授(生命環境科学研究科)	毎日(7.9)
9	本学が、つくば国際会議場で、市民講座「基礎からわかる地震・津波・放射能」を開催	八木勇治准教授(生命環境科学研究科) 境有紀教授(システム情報工学研究科)	毎日(7.9)
10	本学と日本IBMなどは、福島県伊達市の仮設住宅に入居する同県飯館村の住民を対象に、ITを利用した遠隔医療で、健康維持の支援を行う	久野譜也教授(人間総合科学研究科)	読売(7.13) 日本経済(7.13) 東京(7.13) 日刊工業(7.13) 日経産業(7.13) 日本経済web(7.14) 朝日(8.11)
11	本学附属病院が、「つくば災害復興緊急医療調整室(T-DREAM)」を院内に設置	五十嵐徹也附属病院長 安田真講師(人間総合科学研究科 附属病院救急・集中治療部)	朝日(7.14) 毎日(7.14) 読売(7.14/7.24) 日本経済(7.14) 茨城(7.14) 茨城web(7.14) 常陽(7.14) 毎日web(7.14)
12	サッカー女子W杯ドイツ大会 日本女子初優勝。安藤梢選手の、移籍先・ドイツでの暮らしや、PKを決め、勝利を掴んだ熊谷紗希選手の話等	西嶋尚彦教授(人間総合科学研究科) 安藤梢(人間総合科学研究科 博士後期3年 ドイツ・デュイスブルク) 熊谷紗希(休専3年 浦和レッズレディース)	茨城(7.19) 毎日(7.19) 読売(7.19) 日本経済(7.19) 産経(7.19)
13	本学は、国内最高気温40.9度を記録した熊谷猛暑が起きた仕組みの新説を発表	日下博幸准教授(生命環境科学研究科 計算科学研究センター) 高根雄也(生命環境科学研究科 博士後期2年)	朝日(7.22) 日本経済(7.22) 茨城(7.22) 時事通信web(7.22) 東京(7.22/8.1) 毎日(7.22/7.25) 毎日web(7.22)
14	つくば市と本学発ベンチャー企業のサイバードアインは共同で、搭乗型移動支援ロボット(モビリティロボット)が公道を走る実験特区の市民交流拠点を開設	サイバードアイン 山海嘉之教授(システム情報工学研究科)	日本経済(7.26) 日刊工業(7.26) 毎日(7.25) 茨城(7.25) 常陽(7.25) 毎日web(7.25) 日経産業(8.1)
15	本学と、つくば市、インテルは、地域連携事業「つくば2015: つくばが変わる、日本を変える」プロジェクトの開始を発表	山田信博学長	毎日(7.27) 読売(7.27) 日本経済(7.27) 茨城(7.27) 常陽(7.27) 日刊工業(7.27) マイコミweb(7.26) cnet web(7.26) 日本経済web(7.26) 産経web(7.26) Expoニュースweb(7.26) RBB TODAY web(7.29) 朝日(7.30)
16	本学の研究チームが、熱中症の研究結果を発表。「高齢者の冷房抑制は危険」と、節電に注意を喚起	本田靖教授(人間総合科学研究科) 近藤正英准教授(人間総合科学研究科)	茨城(7.29) 常陽(7.29) 読売web(7.30)
17	対戦国の情報を集め、戦力や戦術を分析して、「なでしこジャパン」優勝を支えた本学大学院生、見汐翔太さん	西嶋尚彦教授(人間総合科学研究科) 見汐翔太(人間総合科学研究科 博士後期2年) 安藤梢(人間総合科学研究科 博士後期3年 ドイツ・デュイスブルク) 熊谷紗希(休専3年 ドイツ・FFCフランクフルト)	茨城(8.2)
18	ダイエットに向けた動機付けや教材提供の支援だけでも、相当の減量効果を期待できるという研究成果を、本学大学院人間総合研究科の研究グループが発表	中田由夫助教(人間総合科学研究科)	毎日(8.4) 夕 茨城(8.4) 常陽(8.4) 日本経済web(8.3) 共同通信web(8.3) 毎日web(8.4) 毎日(8.5) 日本経済(8.5) 朝日(8.11)
19	高校生の目線から、土浦市の中心市街地活性化策などを提言しようと、本学と同市内の3高校は、グループ学習会をスタートさせた。同市と本学の包括連携協定に基づく事業の一環	大澤義明教授(システム情報工学研究科) 小場瀬二教授(システム情報工学研究科)	毎日(8.6) 毎日web(8.6)
20	本学と福島県いわき市は、東日本大震災の復興に向けた連携・協力に関する協定を結んだ	山田信博学長 村尾修准教授(システム情報工学研究科)	常陽(8.6)
21	つくば市民活動センターは、福島県いわき市の小学4~6年生35人をつくば市内に招待。本学は、宿泊所に学生宿舎、運動施設として柔道場や体育館、プールなどを提供。約20人の学生もボランティアとして子どもたちの世話を当てる	鴨川一也(生命環境科学研究科 博士前期2年)	常陽(8.8) 茨城(8.10)
22	老化で減る脳の神経細胞を増やす仕組みを、産学技術総合研究所と本学の研究チームが解明し、発表	征矢英昭教授(人間総合科学研究科)	毎日(8.9) 日本経済(8.9) 日刊工業(8.9) マイコミweb(8.10)
23	本学の研究者や企業など約70組織が参加する藻類産業創成コンソーシアムは、藻類を活用したバイオ燃料などの産業化に向けたロードマップを作成する	井上勲教授(生命環境科学研究科)	日経産業(8.22)
24	本学と本学発ベンチャー企業のサイバードアインは、今秋にも欧州で、装着型ロボットスーツ「HAL」を病気治療に使う臨床試験を始める	サイバードアイン 山海嘉之教授(システム情報工学研究科)	日本経済(8.22)
25	▽まち再発見: つくば市北条は、古い蔵を活用した音楽ホールや特産品の販売で、にぎわいつくりに取り組む。蔵は、本学の安藤邦廣教授が改修、特産品を活用したアイスは、本学学生のアイデアによる	安藤邦廣教授(人間総合科学研究科)	日本経済(8.18)
26	本学の江守陽子教授(看護科学)らの研究チームは、関東地方の看護専門学校、短大、大学計15校の看護学生を対象に、看護学生が実習中に患者から受けた暴力の実態を、調査・分析	江守陽子教授(人間総合科学研究科)	毎日(8.22)
27	▽先端人: 本学の渡邊和男教授は、遺伝子組み換えユーカリを活用して、砂漠化が進むアフリカを緑化するプロジェクトを推進	渡邊和男教授(生命環境科学研究科)	日本経済(8.25)
28	柔道の世界選手権。本学から出場的女子57kg級佐藤愛子が初の金メダル。男子81kg級高松正裕は2回戦敗退	佐藤愛子(人間総合科学研究科 博士前期2年 了徳寺学園職) 高松正裕(OB 桐蔭学園高教諭)	産経(8.26) 読売(8.26) サンスポ(8.26) 毎日(8.26) 東京(8.25) 夕 茨城(8.26) 日本経済(8.26) 読売(8.25) 夕
29	柔道の世界選手権。本学から出場的女子78kg級緒方亜香里銀メダル男子90kg級西山大希銀メダル、小野卓志銅メダル	緒方亜香里(休専3年) 西山大希(休専3年) 小野卓志(人間総合科学研究科 博士前期2年 了徳寺学園職)	朝日(8.27) 夕 毎日(8.27) 夕 読売(8.27) 読売(8.28) 東京(8.27) 夕 東京(8.28) 産経(8.28) 茨城(8.28) 毎日(8.28) 日本経済(8.27) サンスポ(8.28)
30	仙台市は、本学、東北大と共同で、今秋から、石油を作る藻類の実用化に向けた研究に乗り出す方針を決定。東日本大震災の被災地が中心となり、国内で自給自足できる新エネルギー・研究を目指す	渡邊信教授(生命環境科学研究科)	毎日(9.3) 夕 河北新報(9.3) 日本経済(9.6)
31	本学の院生や学生が、東日本大震災の被災地支援に息の長い取り組みを続けている。藤原宣也さんは、大学院を一年休学し、みこし再建に取り組む。Tsukuba For 3.11(被災支援団体)は、9月15日に「震災ボランティア最前線」と題した交流会を開催	藤原宣也(生命環境科学研究科 博士前期2年) 中川遼太(生命環境科学研究科 博士前期2年) Tsukuba For 3.11(被災支援団体)	毎日(9.9)

● テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	すご技Q「家庭から変える!今こそ“新エネルギー”大革命」	渡邊信教授(生命環境科学研究科)	NHK総合 あざイチ(6.7)
2	番号制度とプライバシー・個人情報保護	石井夏生利准教授(図書館情報メディア研究科)	NHK総合 視点・論点(6.28)
3	クローリング 疲れず長く泳ぎたい	椿本昇三教授(人間総合科学研究科) 仙石泰雄助教(人間総合科学研究科)	NHK BS プレミアム 『インシュタインの眼』(7.2)

Event calendar

[october]

- 1日(土) 開学記念日
大学プロデュース特別公開講座
(学長講演会)
- 3日(月) 第2次選考「ACI,オリンピック」(~14)
- 8日(土) 学園祭(~10)
計算科学研究センター一般公開(~9)
- 9日(日) 附属図書館特別展講演会
ホームカミングデー
- 13日(木) グローバル30FDセッション
- 15日(土) 全学停電(~16)
- 19日(水) 学長主催留学生懇談会
- 20日(木) 合格発表「ACI,オリンピック」
- 22日(土) 秋季スポーツ・デー(~23)
- 25日(火) ドイツ連邦大統領講演会
- 29日(土) ウズベキスタン
日本学生学術フォーラム



[december]

- 1日(木) 第3学期授業開始
- 3日(土) 課外活動団体リーダー研修会(~4)
- 7日(水) 合格発表「推薦/帰国(体・芸)」
- 23日(金) 「科学の芽」賞 表彰式・発表会
- 26日(月) 冬季休業(~1/7)

[november]

- 1日(火) 男女共同参画採択機関合同シンポジウム
- 12日(土) 第5回つくば3Eフォーラム会議(~13)
- 26日(土) 秋季休業(~30)
- 27日(日) エコシティー第31回つくばマラソン
- 29日(火) 入学試験「推薦/帰国(体・芸)」(~30)





筑波大学
University of Tsukuba